



OPERATOR'S MANUAL



G17
SERIES

SEMI-AUTOMATIC COMBAT
AIR PISTOL

取扱説明書

ご使用になる前に
必ず最後までお読みください。



対象年齢
18歳以上

失明などの重大なケガの危険があります！

誤った取り扱い・不注意な発射は、暴発・跳弾・銃の破損につながり、ケガ・物品破損・事故を招く危険があります。以上の事を未然に防ぐために、この取扱説明書を最後まで良く読み、注意事項・マナーを十分認識したうえで、当製品を安全に正しくお使いください。

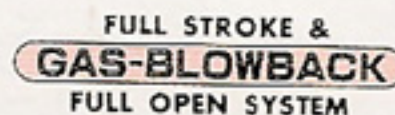


KSC G17 SERIES

SEMIAUTOMATIC COMBAT AIR PISTOL

TABLE OF CONTENTS

	ページ	インデックス
ご使用の前に	3	(使用前)
エアガンのマナーとルール	4	(マナー)
操作	6	(操 作)
ホップアップメカニズム	12	(ホップ)
保管・管理・譲渡・廃棄	15	(保管他)
メインテナンス(手入れ)	16	(手入れ)
分解(組み立て)	18	(分 解)
パーツリスト	20	(パーツ)
アクセサリ	23	(アクセ)
ワンポイントクリニック	24	(故障?)
アフターサービス	26	(アフター)
お近くにKSC 製品取り扱い店がない時は	27	(通 販)
KSC REAL GUN INFORMATION THE GLOCK PISTOL	28	(実 銃)



当製品は18歳以上の方を対象に開発されたスポーツシューティング用エアガンです。玩具として認められる範囲内のパワーで、BB弾というプラスチックの弾丸を飛ばすことができます。パワーは業界内の自主規準により上限が定められており(銃や使用するBB弾によって多少異なりますが、)その最大到達距離は、無風/仰角をつけた時、50~60mといったところでしょう。風に乘ればさらにその距離は延びます。狙って当たるといふ距離ではありませんが、もしそこに人がいた場合、その人に当たってしまう可能性は否定できません。さらに近距離となればその確率は高まり、万一の場合はケガにつながる危険性も有しています。もし自分に向けてエアガンを向けられたら、ということ想定してみてください。発射され当たった時の苦痛、当たらずとも自分の方に向けて発射された事への不快感、発射されなくとも銃口が自分の方に向いている事に対する不安感、そういった感情を持たない人は皆無でしょう。こういった感情においては、実銃だろうとオモチャだろうと基本的には同じなのです。オモチャのエアガンといえど、手にした時には実銃を持っている時とまったく同じ心がまえて

扱っていただきたい、KSCはそう考えます。人が銃を手にした時(それが実銃だろうとオモチャだろうと)、その瞬間から「銃を扱う者の義務」が発生します。自分を含め周囲の人間、動物、施設を傷つけることのないよう、さらには他の者に不快感や不安を与えることのないよう、万全の対応が求められます。万全の対応(=義務)、つまりはルールでありマナーなわけですが、このルールとマナーが十分に守られた時こそ、はじめてエアガンはスポーツシューティングを楽しむためのギア(=道具)として認知され、オモチャとしての存在意義、趣味としての市民権が得られるのではないのでしょうか。義務、マナー、ルールという固苦しく感じるとは思いますが、要は、安全かつ快適にみんながエアガンで楽しむにはどうすれば良いか、扱い方を知らない人がエアガンに触り誤ってケガをしないようにするにはどう保管すれば良いか……などといった、エアガン仲間や第三者への愛情の表れにほかなりません。そういった意味もふまえて、正しいルールとマナーのもとで、当製品をご愛用ください。

本製品は外観面において実銃を可能な限り忠実に再現してあります。また、内部においてはガスブローバックエアガン特有の機構を内蔵しています。そのため、相当の重量や突起した部分があり落した時などは破損・ケガを生じる危険があります。さらに、銃特有の動きを再現しスムーズな作動をさせるため、ガス圧による瞬発力を利用すると同時に強力なスプリングも使用しています。万一、取り扱いを誤ると、ケガ・銃の破損・その他の物品破損・事故などを招く原因となり、危険です。また、悪意の改造を防止する意図から、銃刀法や業界内の自主規制に基づき、材質の規制(主要部品に鉄のような硬い金属は使えない)や安全設計がなされており、必要以上の強度はありません。本来、鉄で造られた実銃の動きを、プラスチックや柔らかい金属(亜鉛合金など)で再現するわけですから、可動部品の一部には材質強度の限界ギリギリで使用せざるをえない、つまりは消耗品とお考え願わねばならないものもあります。

以上のような点をご理解いただき、さまざまなトラブルを回避するためにも、当取扱説明書を最後までよく読み、十分に注意した取り扱いをお願いします。

※取扱説明書、エアガン警告カード等は大切に保管し、安全で正しい取り扱い方を身につけるための手段としてご活用ください。なお取扱説明書や警告カードを紛失した際は当社へご請求ください。その場合、一部¥300(郵送料ふくむ)となります。



★KSC G17シリーズは、今後もバリエーションの展開が予想されます。仕上げの相違/パーツの変更などが考えられますが、基本的な操作方法は同一です。

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

エアガンのマナーとルール



失明など重大なケガの危険があります！

誤った取り扱い・不注意な発射は、暴発・跳弾・銃の破損につながり、ケガ・物品破損・事故を招くおそれがあります。それらを未然に防ぐために、下記の項目を厳守し、安全に正しくお使いください。



人に向けない

- どんな時でも銃口を人(本人含む)・動物・こわれやすい物には向けないこと。



安全機能確認

- 使う時には、まず安全装置など銃の機能が正常に作動することを確認すること。



広い所で射撃

- 射撃には広い場所を選び、万一の跳弾を考え、周囲に子供・第三者・動物・キズがついたりこわれるおそれのある物がないことを確かめてから行なうこと。



飛距離注意

- 夏期等、外気温が高くなると、発射ガスの特性上、弾速が上がり飛距離がのびるので、いっそう注意して発射すること。



銃口向き注意

- 無造作に、銃を振りまわさないこと。



安全装置ON

- 発射する直前までと、発射を終えた直後からは、いつも安全装置をかけておくこと。



跳弾注意

- 標的に跳弾を生じさせるような固い物を選ばないこと。



残弾確認

- 使用後はマガジンを抜き、チェンバー(薬室)内にBB弾が残っていないか確かめること。残っている場合はすみやかに取り出し安全な状態にすること。



銃口側注意

- 射撃の際には、遠近にかかわらず、銃口より前方(標的側)に人、動物がいないことを常に確認すること。



装弾銃放置禁止

- 射撃をする時以外は、BB弾やガスを装てんしておかないこと。弾倉は銃本体から外しておくこと。



射撃前に告知

- 複数の人で射撃を楽しむ場合は、発射前に他の人に撃つことを伝え注意をうながすこと。



さわらせない

- 子供、取り扱い方を知らない人、マナーを守れない人にはさわらせないこと。また、さわれない所に保管すること。



銃口のそくな

- 銃口をのそきこまないこと。



目の保護実行

- 使用時は、ゴーグルなどの目を守るものを絶対に着用すること。さらに、フェイスマスク・帽子・手袋・長ソデなど、肌を露出しない服装や装備を身につけ、ケガを未然に防ぐ方法をとること。(本人だけではなく周囲にいる全員)



TPO注意

- 屋外では第三者に誤解や迷惑をおよぼさないよう、時・場所・方法等に留意すること。



部品等放置禁止

- 踏んだり、幼児が飲みこむといった万一のアクシデントを考え、BB弾、ボンベ類、部品、メインテナンス用品を放置しないこと。



引金触るな

- 標的に銃口が向き、かつ発射する意志がある時以外は、絶対に引き金に指をかけないこと。



風向注意

- 屋外では風向きにも注意し、流れ弾が思わぬほうに行かないようにすること。



部品粉失注意



ケガに注意



BB弾回収

- すべったり幼児が飲みこむといった万一の事故や、環境保全(屋外)のため、BB弾は即時に回収すること。



ケースに保管

- 使わない時、持ち運ぶ時には必ずケースなどに入れること。



ケースで運搬



違反改造禁止

- パワーアップをはじめ、銃の改造はしないこと。



悪用厳禁

- イタズラ、犯罪等に悪用しないこと。



説明書必読

- その他、取扱説明書など付属の文書はすべてよく読み、銃を扱う際には常にケガ・物品破損・事故がないよう、万全の方策を講ずること。



警告カード装着

- 使用しない時には、警告カードを銃本体に取り付けておくこと。

★誤った使用方法や改造による事故・故障については、当社では一切の責任を負いませんので、ご了承ください。

必ず守ってください。

エアガンマナー指導書

この製品は18歳以上の方を対象に開発されたスポーツシューティングピストルです。誤った使い方や、改造によるケガ・故障・事故については、当社は一切の責任を負いません。正しい使い方で、スポーツシューティングをお楽しみください。

- ★銃口は、弾が入っていない時でも、絶対に人や動物に向けない。
- ★発射する時以外は、トリガーに指をかけない。
- ★使用する時以外は、弾やガスを入れておかない。
- ★発射方向に人や動物がいないことを常に確認する。
- ★対象年齢未満の小人の手のとどかない場所に保管し、扱わせない。
- ★壊れやすい物を標的にしたり、標的のバックに置かない。
- ★指定のガス、BB弾以外は使用しない。
- ★銃や弾を絶対に加工しない。
- ★銃口から中をのぞかない。
- ★発射する時は、必ずゴーグルやシューティンググラスで目を保護する。

マイティボンベの使用について

- KSC製マイティボンベ以外は、使用しない。
- ガス圧を上げるなどの危険なことをしない。
- その他、ボンベに書いてある注意を守ってください。

取扱説明書や注意書きをよく読んで、使用方法を守ってください。

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

1 【ガスの注入】

1. マガジンキャッチを押し、マガジンを抜きます。(ガス充てんが十分に行なえませんがマガジンの温まりすぎに注意。改善の必要がある際は次ページを参照してください。)



注意

●マガジンを床などの堅い所へ落とすと変形し、銃を不調にします。掌で受け止めてください。また足の上に落してケガをしないようご注意ください

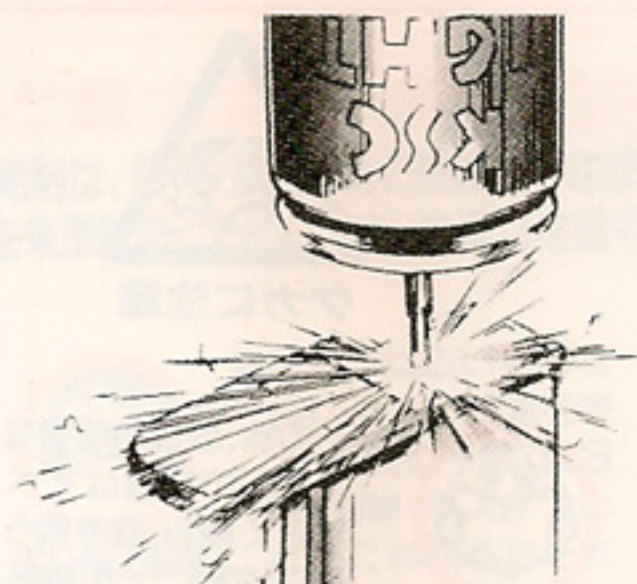
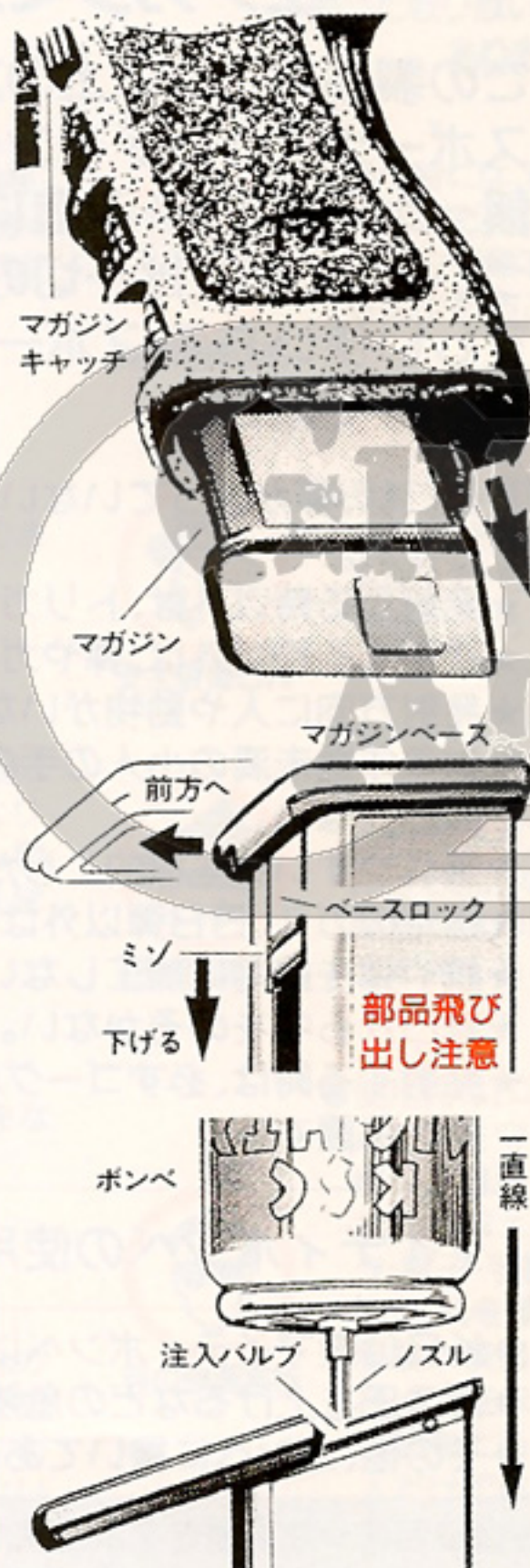
2. マガジンを逆さに持ち、ベースロックのミゾに爪先をかけて下げ、マガジンベースを前方にずらします。すれ始めたらベースロックを下げるのを止めてください(下げたままだとベースがマガジン本体から外れ、ケガや部品紛失の原因になります)。

3. 内部に見える注入バルブにポンベのノズルを差し込み、ポンベを押し下げてガスを注入します。この時ポンベとマガジンが垂直方向に一直線になるようにしてください。うまく注入できている時はシューという音がします。



注意

●ポンベを押し下げたとたん液状ガスが注入バルブ周辺から吹き出す場合は、ポンベとマガジンの注入バルブが一直線になっていない時ですので、微妙に角度を修正して正常に注入できる位置をさがしてください



4. 正常な注入後、満タンになったら液状ガスがふきだしますので注入を終了してください。しばらく放置しマガジンが常温に戻ってから使用します。

KSC
マイティポンベ
500

¥1,300
(500g入り)

(フロンHFC134a)



警告

《ガスボンベ使用上の注意》

●KSCマイティポンベ以外は使用しないでください。特に高圧ガス等は故障の原因となるばかりでなく、破損・破裂といった危険につながることも予想されますので、絶対に使わないでください。また、指定以外のものはポンベの口金が合わず注入できないこともあります ●ガス圧を故意に上げるために暖房器具・熱湯等で加温することは絶対にしないでください。破裂の恐れがあり危険です ●注入時に液状ガスが身体や衣類につかないよう注意してください。気化冷却のため凍傷になる危険があります ●その他、マイティポンベに記されている注意内容も守ってお使いください ●上記の注意を守らずに使用して発生した故障や事故については当社は一切の責任を負えません



破裂注意 40℃以上厳禁 火に近づけない 熱湯で温めない 日光に当たらない 車中放置禁止



警告

《リキッドチャージマガジン使用上の注意》

●リキッドチャージシステムのマガジンは、ガスを注入した直後、マガジン内が非常に冷却されます。そのため、ガス室の内圧が下がり、エアノズルの穴より微量のガスが漏れることがありますが、常温になると正常に戻ります。このガス漏れは、非常に微量ですので、使用上全く問題はありません ●発射時にガスを放出する際、マガジンの油分が飛ばされてしまうので、常にオイルを補充し、ベストの状態でご使用ください。(メインティ

ナンスの項参照) ●周辺温度が20℃以下の場合(冬期など)や連続発射をした時は、ガス圧が下がり、作動が鈍くなる場合があります。これは故障ではありませんから、室温などで常温に戻せば調子は回復します。決してマガジンやポンペを故意に温めないでください ●ガスの入っているマガジンを、直射日光の当る所や火気の近くなど、温度の高くなる場所に置かないでください。故障の原因となる場合もありますので、使用しないときは、マガジンからガスを全部抜いて空にしておいてください ●注入するガスは、KSC純正の“マイティポンペ”と表示されたものをご使用ください。他の種類のガスをご使用になると、故障の原因となるばかりでなく危険です。絶対に使用しないでください ●リキッドチャージシステムは、マガジンやポンペが低温になっていてもガスチャージできます。絶対に缶を温めないでください ●マガジンをむやみに分解すると故障の原因となります。また危険ですので絶対にしないでください ●マガジンはかなりの重さを持っていますので、落下させた場合、ケガや破損の原因となります。掌で受け止めてお使いください ●使用しない時は、マガジンからガスを全部抜いて空にしておいてください。常に圧力がかかった状態ですと、ゴム類等、内部部品の負担が増し劣化を早めることになります ●ガスを放出させる際は、気化冷却のために非常に低温となりますので、ガスが手や顔にかからないようご注意ください

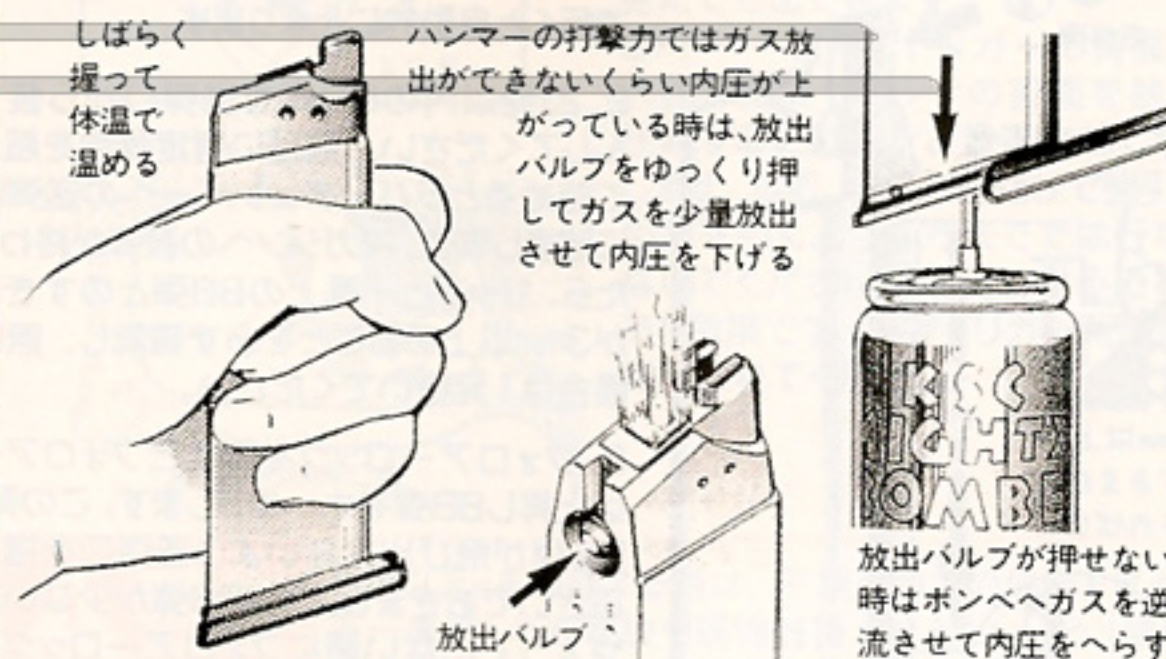
注意

《マガジン性能安定のポイント》

KSCのガスブローバックガンは、生ガス(液状ガス)を吹きながらも正常な作動・弾道が得られるよう設計されていますが、極端に冷えすぎた場合、ブローバック作動時に送弾せずBB弾が飛ばないことがあります。このような時やガス注入時にマガジンの冷えが確認された場合は注入後に掌でしばらく握っているか、室温など20~30℃のところではしばらく放置して常温(=マガジンを触ってみて冷たくも熱くもない)状態にしてください(放置しておく際は子供の手の届かないところで行ないましょう)。また、逆に直射日光等が原因で温まりすぎてしまった場合ですが、状況によって改善策が多少異なります。①ガスが満タン(またはそれに近い状態)で温まりすぎた場合——異常な内圧の上昇により放出バルブの“はりつき現象”が起き、ハンマーの打撃力だけでは放出(=発射)できないことがあります。このような時は放出バルブを押し、ガスを少量放出して内圧を下げてください。この時、放出量が多いと全弾撃ちつくすだけのガスが残らないこともありますので注意しましょう。放出バルブが押せないほど圧力が高くなった時は、図のようにポンペを下にして注入時と同じ要領でマガジンを押すつくと、相方の内圧が同じになるまでガスが逆流し圧力の低下が得られます。こうすると放出バルブを押せるようになりますが、この場合、全弾分のガス量が残っていないことがあり、さらにマガジンが温まったままですとガス補充も十分に

は行なえません。いったんマガジンからガスを放出し(気化冷却を利用してマガジン温度を下げる)改めてガス注入を行なってから使用してください。②当マガジンは通常80発以上分のガス量が蓄えられます。性能の安定を図り、残りのガスを有効に使う意味から2マガジン分位を撃つたびにガスチャージしてください。この時、マガジンが温まりすぎていることが大切です。残りのガスが入っている状態でマガジンが温まりすぎている場合、マガジン内圧がポンペ内圧より勝り、ガス補充のつもりで作業を行ってもマガジンからポンペへの逆流を招くだけで実際にはガス補充ができていなかったということもあります。そんな時は放出バルブを押して残りガスをすべて放出したうえでガス注入を行なってください。③ガスが空の状態のマガジンが温まりすぎた場合——空とはいっても1気圧分の空気は入っています。これが熱により膨張し内圧が高まっているわけですので、ガス充てんが不十分にしか行なえないことがあります。空のマガジンでも放出バルブを押し外気圧(=大気圧)とマガジン内圧を同じくしてからガス注入を行なってください。④異常なほどマガジンが熱くなってしまった場合、ガス放出・ガス注入をくりかえし、気化冷却によってマガジン温度を常温(冷たくもなく熱くもない状態)にしてから使ってください。なお、この銃の場合、前述の放出バルブの開放は、放出バルブ頭部を押すことで行なえます。最後に以上の内容をまとめると以下の3項に集約することができます。

- 銃の性能を100%引き出すにはマガジンのノウハウを身につける
- 使用時はマガジン温度をつねに常温状態(20℃以上)でキープする
- 「1チャージ2マガジン」が性能安定のポイント



※寒冷期は気化が遅く圧力も低いので、夏場より液状ガスが多く注入され気化スペースを狭くし、最初の数発は生ガスがでてしまう傾向が強まります。満タン注入後はガスを少量放出し、気化スペースを作ってください

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

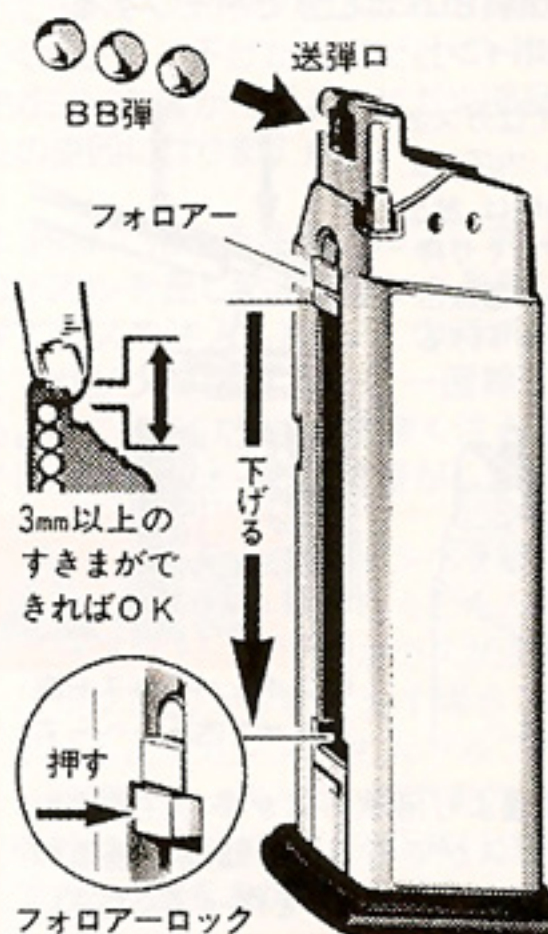
2 【BB弾の装てん】



警告

《BB弾使用上の注意》

●KSC製エアガン(ガスガン含む)は、全機種KSC製BB弾に合わせた設計・調整が行なわれています。言い換えれば同BB弾使用時に最も高性能が発揮できるということにもなります。以上の理由から、BB弾は必ずKSC製をお使いください。指定外のBB弾、キズがあったり変形したBB弾、改造を施したBB弾は、性能を著しく低下させるばかりか、正常な発射ができなかったり様ざまな作動不良の要因ともなりえます。ご注意ください。(当社への修理依頼品のうち過半数は他社BB弾使用に起因するものです。また、そのうちの半数近くはKSC製BB弾に変えただけで正常作動してしまうというのが実状です。) ●KSC製以外のBB弾を使用して発生した故障や事故については、当社では一切の責任を負えません。 ●BB弾は使用後必ず回収してください。幼児が飲み込んで窒息したり、誤って踏んで転倒し大ケガをするなど、思わぬ事故につながる危険性があります。また、屋外で回収を怠ると、環境破壊にもつながります



1. フォロアーを押し下げます。一番下まで行くと自動的に止まります。

2. 23発以内のBB弾を送弾口から装てんしてください。無理に指定弾数を超えて詰めるとラバーチェンバーへの送弾時に破損します。マガジンへの装弾が終わったら、リップと一番上のBB弾とのすきまが3mm以上あることを必ず確認し、無い場合は1発抜いてください。

3. フォロアーロックを押すとフォロアーは上昇しBB弾をホールドします。この時、BB弾が飛び出さないよう送弾口を指でふさいでおきましょう。BB弾が少ない時や入っていない時にフォロアーロックを解除すると、おもいきりフォロアーが上昇しリップやBB弾にぶつかり破損を招きます。このような時は指先をそえて、ゆっくり上昇するように配慮してください。

●装弾済マガジンへのガス注入時の注意

BB弾が入っているマガジンにガス注入をする時は、フォロアースプリングが圧縮されているため、万一マガジンベースが外れてしまうと部品が勢い良く飛び出てしまいます。本人や周囲の人にケガをさせてしまったり物品破損につながりかねません。ベースロックは解除されしだい下げのを止め、マガジンベースをずらす際は外れてしまわないよう細心の注意をはらってください。

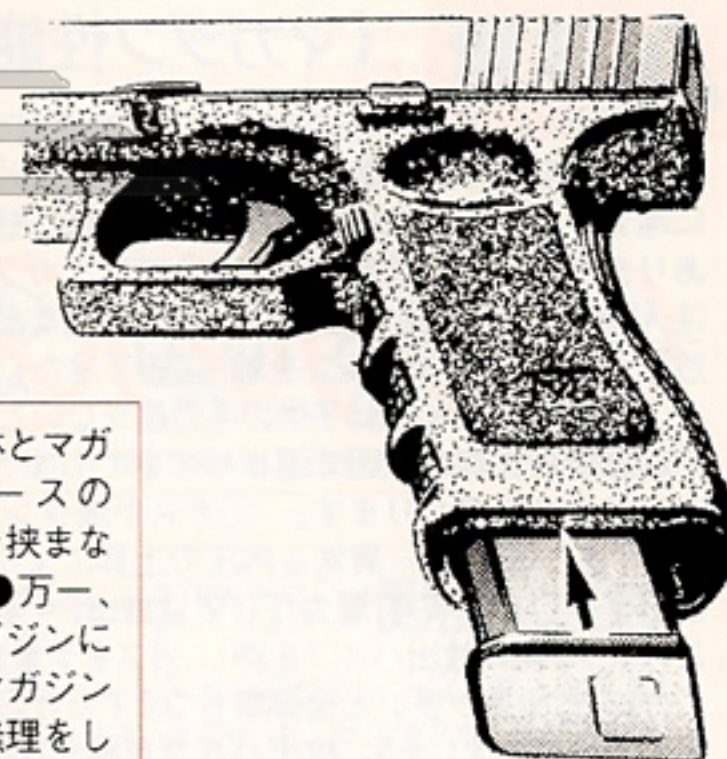


注意

●指定数をこえるBB弾を無理につめこむと、破損の原因となりますのでご注意ください。 ●気温の変動等によりマガジン内の圧力が上がりすぎると、ハンマーの力ではガスを放出できなかったり、弾道が乱れる場合があります。そのような時は、BB弾を抜き、ガスを多少放出させ(7ページ参照)ガス圧を下げてからご使用ください

3 【マガジンの装着】

マガジンを銃本体に戻します。この時、マガジンキャッチがカチンと音をたててかかるのを確認し、念のため一度マガジンを下に引いて抜け落ちないことを確かめてください。



注意

●銃本体とマガジンベースの間に手を挟まないようご注意ください。 ●万一、指定数をこえるBB弾がマガジンに装てんされている場合は、マガジンが正しく装着できません。無理をして装着しようとする銃が破損します。このような時は決して無理をせず、BB弾を減らしたうえで装着してください

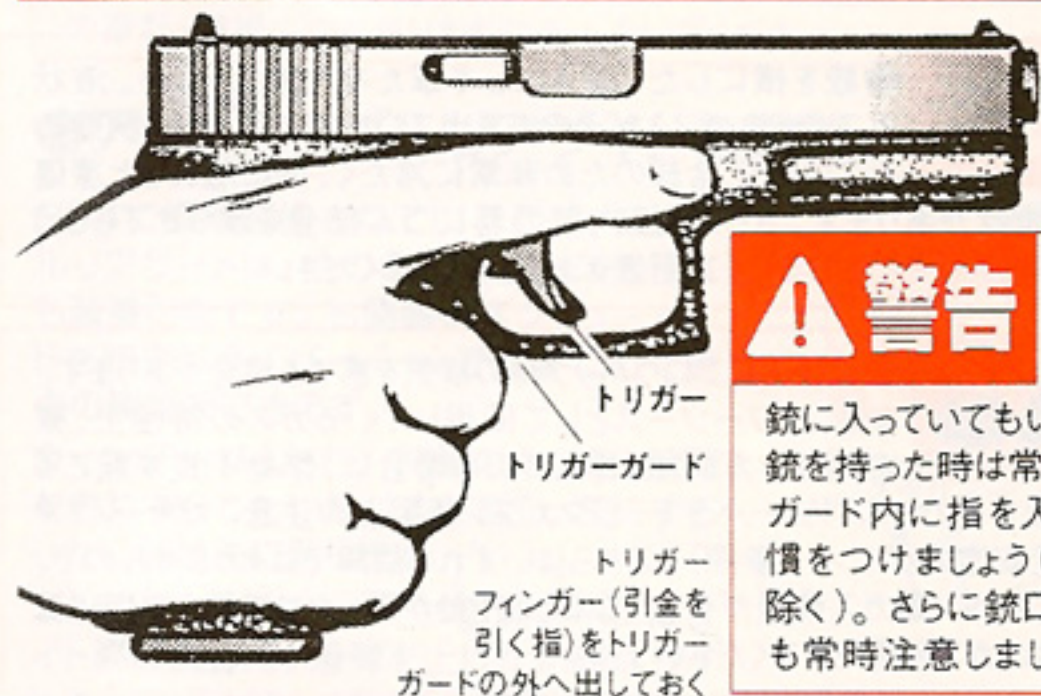
破損の原因になります。マガジンをおもいきりたたきこまないでください。

4 【初弾の送りこみ】



⚠ 注意

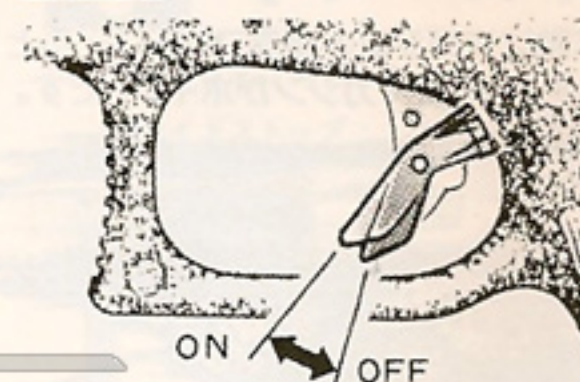
- 指をそえたりしてスライド前進を遅らせると送弾不良の原因になります。指をパッと離してください
- 誤射・暴発を防ぐ意味で、射撃の直前まで薬室にBB弾を送りこまないでください



⚠ 警告

- BB弾・ガス・マガジンが銃に入っている場合、銃を持った時は常にトリガーガード内に指を入れない習慣をつけましょう（射撃中は除く）。さらに銃口の向きにも常時注意しましょう

5 【セフティ（安全装置）】



トリガーセフティ

実銃どおりの安全装置です。射手がトリガーに指をかけた時のみ、自動的に安全装置が解除される構造になっています。

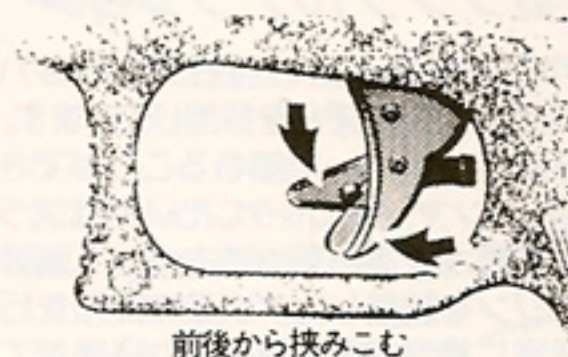
AGセフティ

業界の規約により手動式＝マニュアルセフティの設置が義務づけられているため、それに準じて新設した安全装置です。



ON→トリガー下端とセフティ下端の間に爪先もしくは細棒状の物を挟み、時計回り方向に持ち上げます。多少抵抗はありますが、パチンと音をたてて出てきます。

OFF→親指でトリガーの背面を、人差し指でセフティの前面を挟み、圧縮するとパチンと音を立てて解除します。なお、人差し指だけで強引に、引金を引くような方法では行なわないでください。暴発させる恐れがあり危険です。必ずトリガー背面に親指を入れてください。



⚠ 警告

- セフティを操作する時は、不調や故障の場合を考え、万一暴発しても事故や器物破損がおきないように、銃口の向きに注意し、さらに跳弾しない配慮をしてください

- セフティ操作中はトリガーに指をかけないでください。発射をする時以外は、つねに安全装置をかけておく習慣をつけるようにしましょう

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障？

アフター

通販

実銃

操作 III

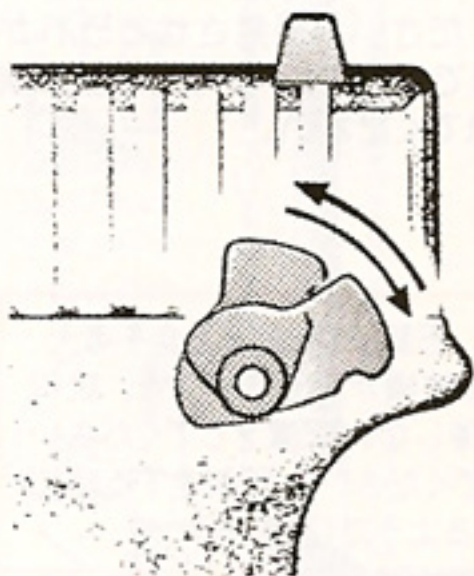
6 【発 射】

★快調作動はマガジンの温度コントロールと
1チャージ2マガジンがポイントです。



セフティをかけてある場合は
解除したのち、トリガーを引いて
ください。トリガーを引くたびに
ガス圧によるBB弾発射とスライド
後退（ガスブローバック）が行なわれます。
★スペアマガジン（¥3,200）を活用すると
いっそうシューティングが楽しめます。

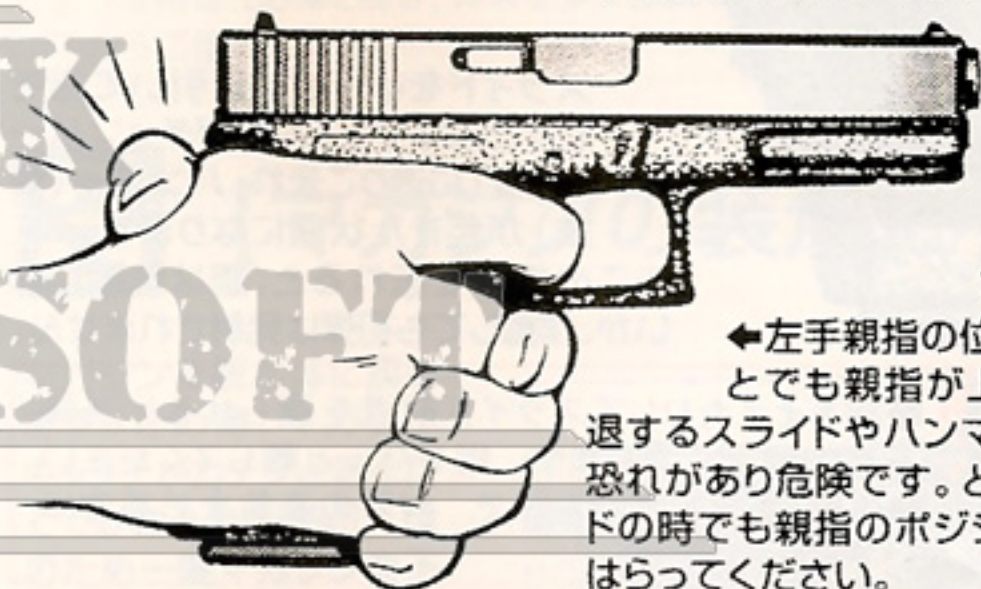
●ハンマー内蔵型シングルアクション



快調な作動性を得るため当モデルではハ
ンマー内蔵式メカニズムを採用しています。
外部から直接ハンマーに触れることができ
ないため、ハンマーをコックしたい時はスラ
イドを前後動させる必要があります。装弾
済みマガジンを装着したままこの操作を行
なうと薬室に複数のBB弾が送り込まれて
しまいます。回避したい時はマガジンを抜
いてからスライドの前後動を行なってくだ
さい。なお、ハンマーがコックしているか
否かは、トリガー位置（前進ポジションなら
ハンマーはコック、後退ポジションならハン
マーはダウン）で確認することができます。



★性能どおりの命中精度を引
き出すには、しっかりしたグリッ
プホールドが不可欠です。図のようなツー
ハンドホールドが最も効果的。右手は突
き出し左手は体の方へ引きつけるように
して握るのがコツです。



●良くない グリップホールド

←左手親指の位置に注意！ちょっ
とでも親指が上へズレると、後
退するスライドやハンマーでケガをする
恐れがあり危険です。どのようなホールド
の時でも親指のポジションには注意を
はらってください。

！警告

●銃を横にしたり逆さにして撃たないでください。液状
ガス（＝生ガス）がそのまま出てしまいます。この状態の
ガスは気化冷却のため非常に冷たく、体に触れると凍傷
になる可能性があります。さらに、銃内部の特にゴム部分を凍らせてしまう
場合もあり、劣化をいちじるしく進行させます。ご注意ください

！注意

●銃後方にブローバック時の排気を感じずる場合があります。
また、パワーソースとして使用しているガスの特性上、寒
冷期やマガジンが冷えている場合は、作動不良が起こる
こともあります（6ページ“リキッドチャージマガジン使用上の注意”7ページ“マ
ガジン性能安定のポイント”参照）。これらはいずれも故障ではありませんので、
ご了承ください ●ガス残量が少なくなると、作動が悪くなり性能が安定しま
せん。早めにガスを補充してください

警告**《発射時の注意》**

不注意な発射は失明やケガ等の危険があります。発射の際は跳弾にも十分注意し周囲の安全を必ず確認してください

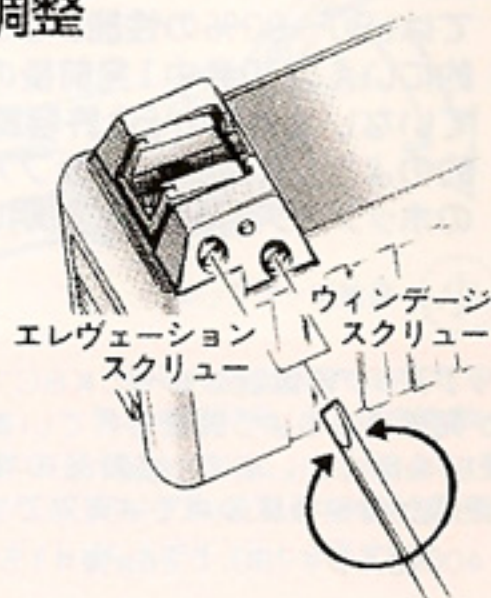
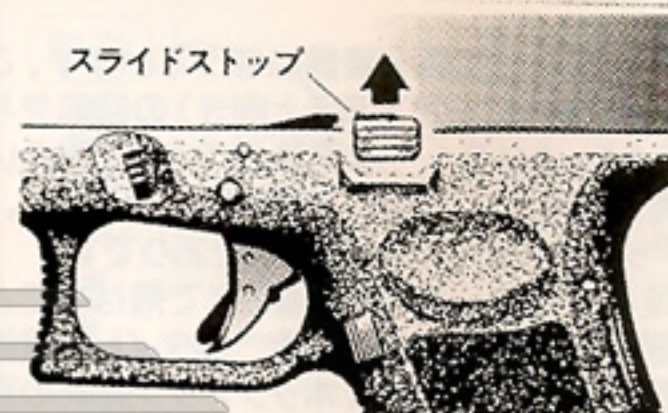
- スライドが勢いよく後退します。顔を近づけないでください。また、跳弾や万一の破損による部品の飛散を想定して、シューティンググラスなどのアイプロテクション（目を保護するもの）を必ず着用し、肌を露出しない服装になるなどしてケガを未然に防ぐ方法をとってください
- 倒れてくるハンマーで指などを挟まれないよう注意してください
- 撃つ・撃たない、BB弾が薬室に入っている・入っていないにかかわらず、どんな時にも人・動物・これややすい物に銃口を向けない、または銃口側にいない（ない）ようにしてください
- 同上の理由から、万一の暴発を考え、銃口をのぞきこまないでください
- BB弾の到達距離はその時の気温、風向に多分に左右されますので、より遠く、より広範囲にわたって十分な注意をはらってください
- イタズラに他人の物、公共の物を撃ったりすることは絶対しないでください。それは犯罪です
- 発射する意志があり、かつ銃口が標的に向いている時以外は、絶対に引金に指を触れないでください
- 射撃を楽しんでいる以外の人がいる時や屋外の場合は、近所迷惑・誤解のないよう十分注意してください
- 壊れやすい物を標的にしたり、標的の周辺に置かないでください
- 跳弾は思わぬ方向に飛ぶ可能性があります。可能な限り広範囲に注意をはらってください
- 複数の人で射撃を楽しむ場合は、全員にアイプロテクションの着用を義務づけ、射撃前には他の人に発射することを伝え注意をうながしてください
- 必要以上の空撃ち（ガスやBB弾を使わない射撃操作）は部品の摩耗・破損につながりますので、しないでください

●アジャスタブルリアサイトの調整

G34に標準装備されているアジャスタブルリアサイトは、他のG17シリーズ機種にも装着可能です。右側面のスクリューヘッドを精密ドライバー（一）で回すことで狙点の調整ができます。

ウィンテージ（左右）：前側のネジを、着弾を右にずらしたい時は右に回し、左にずらしたい時は左に回します。

エレヴェーション（上下）：後側のネジはサイト高の調整用。着弾を上げたい時はサイトを上に、下げたい時は下に移動させます。

**7 【ホールドオープン】**

全弾撃ちつくすとスライドストップがかかり、スライドは後退位置で止まります。スライドストップを下げるとスライドが前進し通常位置に戻ります。替えマガジンがある時は、オープン状態のまま空マガジンを抜き、替えマガジンを装着し、スライドを引くと初弾が送りこまれ再度発射準備完了です。

注意

●スライド閉鎖時に指を挟まないよう注意してください。この時、トリガーに指がかかっていることと、銃口の向きにも注意をはらってください

●寒冷期やガス切れ・連続発射等によるガス圧不足、メインテナンス不足、グリップホールドの甘さなどが原因となって、スライドストップがかからない時がありますが、これは故障ではありません。該当する原因を改善すれば正常にもどります

8 【発射が終わったら】

マガジンを抜きスライドを引いてチェンバー内に残弾がないことを確認。ある場合はスライドストップをかけ、銃口側から棒状の物で押し出します。クリアー後スライドを閉鎖し、内蔵ハンマーをコックオフするために銃口の向きに注意して空撃ちしてください。

**警告**

●撃ち終わった時、撃つ意志がない時には、ただちに薬室からBB弾を抜き、決して入れたままにならないようにしてください（誤射・暴発へつながる可能性があります）

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障？

アフター

通販

実銃

ホップアップメカニズム

ホップ調整をマスターして、銃の性能を最大限に引き出しましょう。



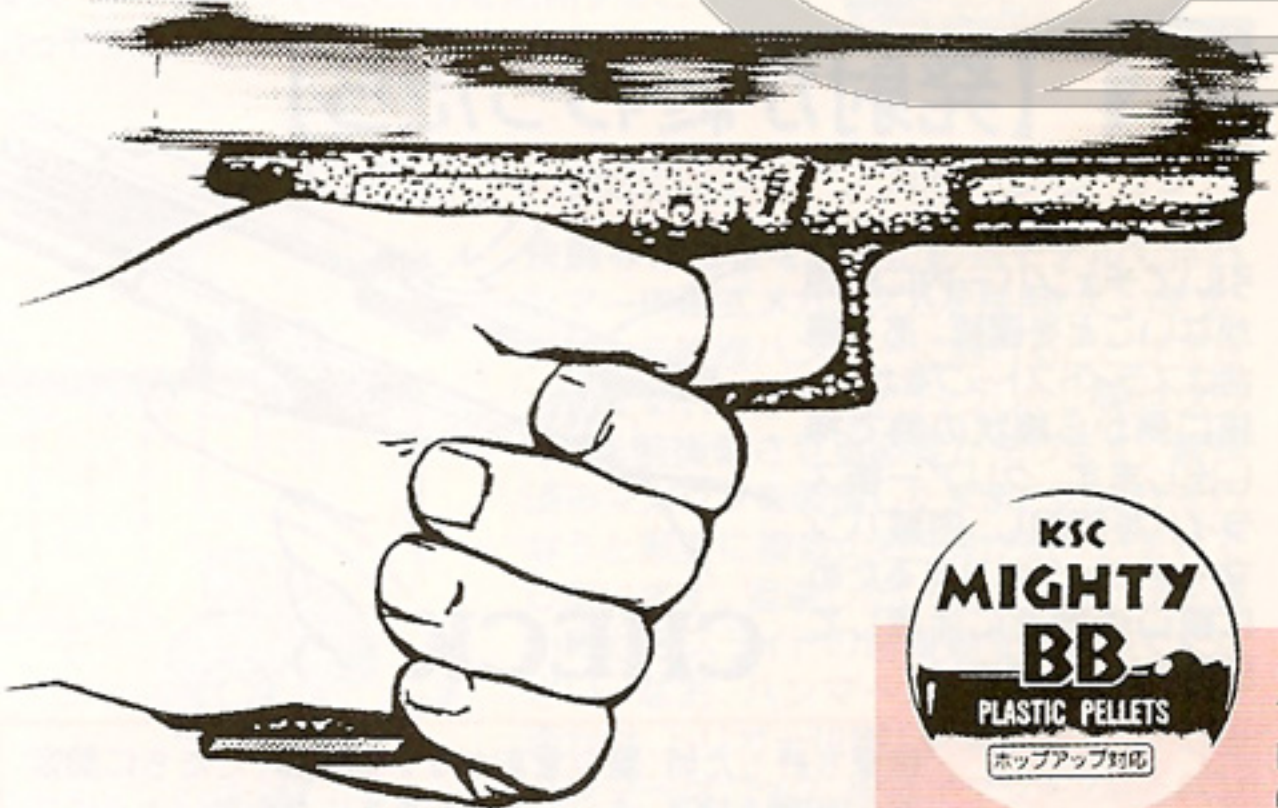
【ホップアップの現状】

当製品には可変ホップアップメカニズムが標準装備になっています。このメカニズムは、発射時のBB弾に意図的に一定方向（上向き）の回転を与えることで揚力を生ませ、それにより、より遠くへ水平軌道のまま（あるいは多少の放物線を描かせて）到達させることを目的に開発されています。

一般的に言われているホップアップ機能の特徴は以下のとおりです。

●無暴なパワーアップという手段を使わずにBB弾を遠くまで飛ばすことができる ●弾速はノーマルに比べ遅くなる場合もある ●タイトな機構であるため、BB弾のバラツキ、気温、湿度の変化が、ホップアップ効果の変動要因となる。

以上のように「遠くへ飛ばす」という大きなメリットと「BB弾・ガス圧といった不安定要素が、（ノーマルガン以上に）性能に影響を及ぼす」というデメリットを併せ持つのがホップアップガンなのです。ホップアップガンの性能を高水準で安定させるにはデメリットを最小限にすれば良いわけで、それにはいくつかの条件を満たす必要があります。



このマークが目印!



注意

《ホップアップ性能安定の条件》

①BB弾を選ぶ。

同一種のBB弾で、真球度が高く、径にバラツキのないものを選び、同時に汚れ・キズ・変形等がないことをチェックのうえ使用する。なお、0.2～0.25g弾の使用がもっとも効果的（軽量弾はバラツキ等の影響が顕著に表れ弾道が安定せず、重量弾だと飛距離が伸びない）。

②パワー（ガス圧）を極力一定に保つ。

ボンベやマガジンの使用時の温度が一定（保管時も同様）であることが望ましい。使用の際は替えマガジンなどを用意し、使用済みマガジンは休ませてガス圧の回復を図るといった方法もデメリットを最小限にするにはベター。

③ラバーチェンバー、銃身内部の状態を同一条件下に維持する。

オイルのつきすぎ、不良BB弾の使用やホップのかけすぎによる弾づまり等起因するキズ、摩耗した部品の使用などもマイナス要因となる。メンテナンス時の注油は微量多頻度で行ない（17ページ参照）条件を安定させる意味から常に注油量を一定にする、ラバーチェンバー・インナーバレル内のオイルや汚れを定期的にクリーニングする、BB弾・ラバーチェンバーやインナーバレルにキズ・摩耗がある場合は早めに取り換える、といった配慮が必要。

④大気の状態が安定している

いうまでもなく無風が望ましい。気温差も上記②に関連してホップのかかりぐあいに影響をおよぼすので配慮が必要。

※以上の4条件を満たせばその銃が持つホップアップ性能を100%引き出せる訳ですが、シューティングを楽しみながら、それらの微細な条件を常に高レベルでクリアすることは現実的には困難です。そこで考え方としては、80～90%の性能レベルを維持しつつホップアップを楽しむ、具体的にいえば10発中1発前後の弾道の乱れなら（もともと条件をクリアしていないのですから）許容範囲と考え割り切って楽しむ、というのが一般的のようです。では、ホップアップの現況説明はこれくらいにして、本製品のホップアップに関して説明してゆきましょう。

※KSCのホップアップ搭載銃はすべてKSCマイティBB弾に合わせて設計し、同BB弾によって最も性能が発揮できるよう調整されています。銃性能を生かす意味からもKSCマイティBB弾をお使いください。なお、当製品の場合、寒冷期には0.2g弾、その他の季節には0.25g弾の使用が命中精度の点では有効です。

（0.2g弾=2,400発入り¥700、0.25g弾=1,500発入り¥750）



【調整と試射】

★ホップアップ調整には20m以上の空間が必要です。

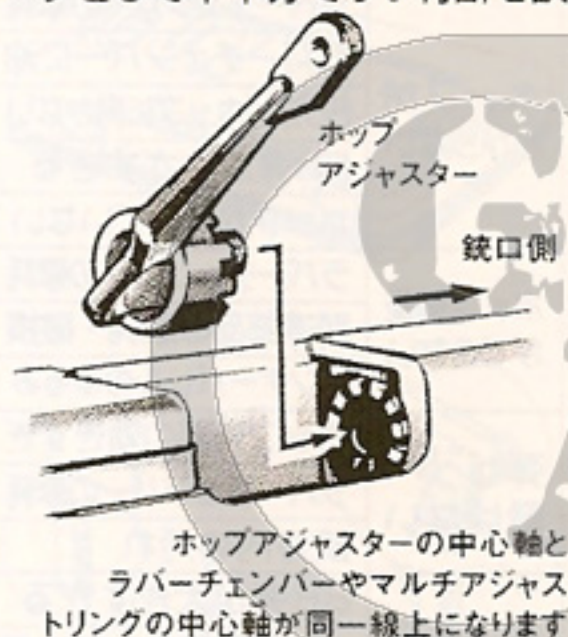
1 まず、銃を撃ててみます（操作の項参照）。ホップのかかりぐあいが希望どおりの弾道を描いているかどうかをチェックします。この時、10～12発撃ち平均的な弾道やグルーピングにより判断してください（2～3発ではデータとして不十分です。判断を誤る可能性があります）。

2 マガジンを抜きスライドを作業しやすいところまで後退させ、エжекションポートからホップアジャスターを差し込み、マルチアジャストリングの歯車状の突起の凸凹とアジャスターの凸凹が全周ともきれいに噛み合うように装着します。

3 試射の結果、ホップのかかりが弱い時は左回転、強い時は右回転させ、ホップ調整をしてください。この時、アジャストリングとアジャスターの全周の凸凹がきれいに噛み合い、かつ密着していることを確かめた上で操作してください。

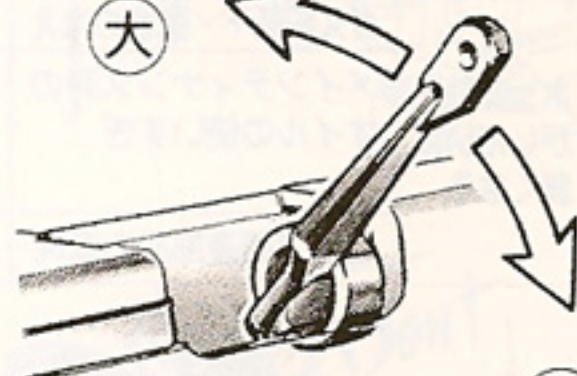
注意

●歯車状突起が全周きれいに噛み合っていない時や密着していない時などのように正常装着でない場合、アウターバレルやその他の部品に変形やキズを付けてしまう可能性があります。十分注意して操作してください。



ホップアップ効果

大



ホップアップ効果 小

調整は左右合計100度位の範囲内で可能（回し過ぎ注意）。

アウターバレル薬室部入口上部の内曲面に、ホップアジャスターの円筒部上面を密着させ、それをガイドにして回すと正しく回せます。

★調整のポイント

ホップ効果	BB弾の弾道現象	改善方法 (アジャストリングの調整)
無効	自重による自然放物落下	さらに左へ
小	水平飛行距離が自然放物落下よりはのびる	少し左へ
適	水平飛行距離が最長に	そのまま
大	水平飛行から上昇に移り、最後に放物弧で落下（この現象の直前状態が最適のチューニング）	少し右へ
かけすぎ	極端なホップ、極端なドロップ、停弾、発射サイクルのバラツキ等が起きる	さらに右へ

4 調整→試射→調整と、以後、希望の弾道が得られるまでくりかえします。

注意

●「調整のポイント」の表の「かけすぎ」の現象が起きた場合は、すみやかに射撃を中止し改善方法を実行してください（ラバーチェンバーをはじめ銃の摩耗・破損をはやめることになります）。●弾づまりの時はアジャストリングをホップ効果がきかない所まで戻し、その上でBB弾を取り去ってください（かけすぎの状態＝つまりラバーチェンバー内が狭いため停弾したわけですから、この状態で強引にBB弾を抜き取ろうとすると確実にラバーチェンバーを痛めてしまいます）。●誤った調整方法・分解・改造による故障・事故等については当社では一切の責任を負いません。また、その結果として生じた修理・調整費用はすべて有料となります。

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障？

アフター

通販

実銃

ホップアップメカニズム II

⚠ 注意

《快調なホップアップを楽しむために》

●ホップアップというメカニズムは、BB弾上面に摩擦抵抗をかけることで回転運動を与える構造をもっています。BB弾に伝わったガス圧によるエネルギーを一部浪費することもあり、この場合弾速は幾分落ちてしまいます。これは銃の発射にとってマイナス要素ですが、ホップアップ効果が加わることで飛距離が大幅にのびるというプラス要素のほうがはるかに上廻るというのがホップアップの大きなメリットになっているわけです。ただし、あくまで弾速に抵抗をかけているのですから、寒冷期や連射後の極端にマガジンが冷えた状態の時などは、プラス要素とマイナス要素の差が少なくなってきます。その分、めだっていなかったマイナス要素がめだってくるわけで、具体的には弾道や弾速がバラついてくるという現象となって表れます。特に多弾数の連射の際には極めてその確率が高く、不調あるいは故障と誤解なさることが考えられます。これはガスガンの宿命ともいえるもので、故障ではありません。寒冷期にもホップアップを快調に楽しむために、ガス注入後のマガジンは20〜30℃の室内や掌で温めた状態でご使用ください。なお、こたつやお湯などの40℃以上になる場所・方法での強制的な温め方は絶対にしないでください。銃の故障につながるばかりか、破裂・破損の可能性があり極めて危険です。

⚠ 警告

《ホップアップガン使用上の注意》

●試射/射撃の際には11ページの《発射時の注意》をよく読み遵守してください ●操作時は6〜11ページをよく読み理解のうえ使用してください ●ホップアップの場合、飛距離がのびますので、人・動物・壊れるおそれのある物がないことを、かなり前方に至るまで(万一を考え80mくらいまで)しっかりと確認してください ●ホップアップガンの場合、横に倒したり傾けたりして撃つと、弾道が大きく曲がり危険です。銃は通常の立てた状態で使用してください ●銃の傾き・風向きによる流れ弾、跳弾のことも考え、ノーマルガン以上に広範囲にわたって十分な注意をはらってください



飛距離注意



HOP弾道注意



傾けて撃たない



広い場所で射撃

★ホップアップに関する ワンポイントクリニック (故障かなと思ったら)

現象	原因	対処方法
ホップしすぎる	ホップ効果の効きすぎ	アジャストリングを右へ
	BB弾が軽すぎる	適正重量(0.2〜0.25g)の弾を使用
ホップがばらつく	ホップ効果がまだ弱い	アジャストリングを左へ
	BB弾の径のバラツキ	精度の良いBB弾を使用する
ホップがかからない	ラバーチェンバーの摩耗	新品パーツと交換
	ラバーチェンバーに油	綿棒等で拭き取る
	BB弾がホップに向かない	適正BB弾を使用する
	BB弾が小さすぎる	適正サイズのBB弾のみを使用する
	ホップが効いていない	アジャストリングを左へ
ホップ調整ができない	ラバーチェンバーの摩耗	新品パーツと交換
	関連部品の摩耗・破損	新品パーツと交換
	インナーバレルのゆるみ	しっかりラバーチェンバーにさしこむ
弾が飛ばない	ホップ効果の効きすぎ	アジャストリングを右へ
	ラバーチェンバーの摩耗	新品パーツと交換
	銃身内の汚れ	綿棒等でインナーバレル内を清掃
弾づまりする	BB弾が大きすぎる	適正サイズのBB弾のみを使用
	ホップ効果のかけすぎ	アジャストリングを右へ
	ラバーチェンバーの汚れ	綿棒等でクリーニングする
ホップ効果がしだいに弱くなる	ガス圧低下/弾倉の冷え	マガジン、ガスを常温に戻す
	メインテナンス時のオイルの使いすぎ	空撃ちでマガジンやピストン内のオイルを飛ばしラバーチェンバー内やインナーバレル内を清掃
	ホップ関連部品の摩耗	摩耗部品を新品に交換する

G17
RAILED FRAME
SEMI-AUTOMATIC COMBAT AIR PISTOL

保管・運搬・譲渡・廃棄

【保管】

銃の保管は必ずオーナー（所有者）の責任で
確実にこなしてください。

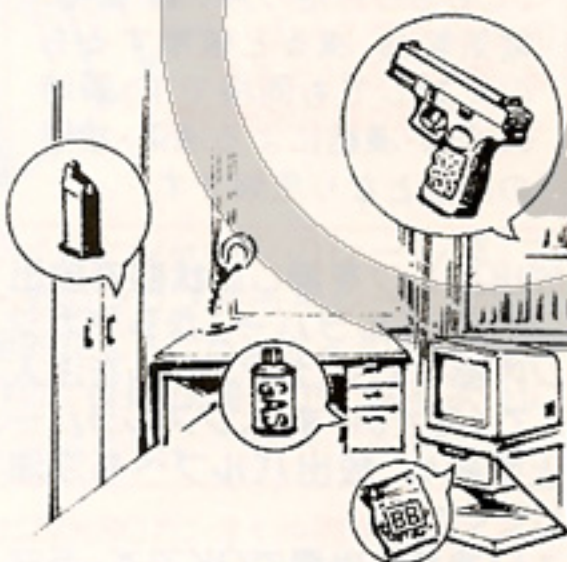
Clear?



！ 注意

●スライドを引
き薬室内にBB弾
が入っていない

ことを確かめ、使わない時は必ず
ケースや箱に入れて保管してくださ
い ●ポンベ・BB弾は銃とは別に保
管します（できれば、銃・マガジン・ポ
ンベ・BB弾がそれぞれ別々に保管
できることが望ましい） ●子供・取
り扱い方を知らない人・マナーを守
れない人にはさわらせないでください。
また、さわれないよう保管してくだ
さい。（もしそのような人に銃をさわ
らせる場合は、持ち主の責任で安全
管理をし、取り扱い方・マナー等を正
しく理解・実行していただけるよう
啓蒙してください。） ●保管場所が
不適当な場合の盗難・事故・事件が生
じても当社はいっさい責任は負いま
せん ●長い間使用していなかった
銃を使用する場合、部品の破損・摩耗
がないか、作動はスムーズか、安全装
置などの銃の機能が正常に働いてい
るか、などをまず確かめてください



【運搬】

！ 注意

●持ち運ぶ場合
はケースや袋に
入れ、決して銃
をむき出したままではしないでく
ださい（第三者に不快感を与えたり
誤解を招く可能性があります）



【譲渡】

！ 注意

●銃を他の人に
ゆずる時は、銃だ
けではなく、取扱
説明書や警告カードも渡してください。
取扱説明書がなかったために誤った
操作をして本人もしくは他の人がケ
ガをしたしまった場合、あなたにも責
任がかかってくる可能性があります



取扱説明書や警告カードを紛失した際は当社へご請求ください。その場合、
一部¥300（郵送料ふくむ）となります。

【廃棄処分】

！ 注意

●銃を廃棄す
る（捨てる）場合
は、ガスが入っ
ていないことを確認し、箱などに
入れ「処分する玩具」と明記して行
なってください。この際、悪用され
ないよう、わざと破損させる、バラ
バラに分解するといった配慮もあっ
たほうが良いでしょう



使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障？

アフター

通販

実銃

メンテナンス (手入れ)



警告

●手入れを怠ると、たとえ買ったばかりの品でも作動不調をおこします。最終的には銃の耐久性にも影響しますので、こまめに行なってください ●メンテナンス中に工具類でケガをしないようご注意ください



注意

《使用前点検》

何度も使っているうちにピン類が出てきたりスクリュー類がゆるんできたりすることがあります。弾が飛ばなくなる・閉鎖不良が起きるといった不調症状が表れ、故障・部品紛失の要因となりえますので定期的にチェックしましょう。特にブリーチスクリュー(パーツリスト参照)は、ガスブローバック時の振動により、ゆるみやすい傾向にあります。使用前に必ずチェックし、ゆるんでいる場合は「増し締め」してください。〔ネジロック〕などのゆるみ止め剤を少量つけ固定する方法もあります。使用の際はその商品の使用方法・注意書をよく読んでからお使いください。

※上記スクリュー類がゆるみはじめると、BB弾がボロッとしか飛ばなくなる、弾道がバラつく、BB弾の送り込みが悪くなる、スライドの閉鎖不良が起きる、ブローバックのスピード低下、などの不調症状が生じます。そのまま使い続けると症状は悪化し、さらには関連部品の破損につながりますので、異状に気付いた時にはすみやかに点検し改善してください。なお、ガス切れ／ガスの冷えすぎた時にも同症状が表れますので、そちらもチェックしてください(6～7ページ参照)。



注意

《使用オイルについての注意》

オイルはプラスチック用で「第4石油類」と明記されたテフロン系／シリコン系のものをお使いください。以上の表示がないものは絶対使わないでください。モデルガン／エアガンで使用されているゴム類や各種プラスチックのなかのある種の材質を侵してしまうものがあることが、当社の実験結果で確認されています。なかでも第2石油類のタイプ、金属用オイル(ミシン油、モーターオイル、CRC556などのスプレー潤滑油、錆汚れ落としなど)は、100%といって良いほどヒビ割れなどの劣化の原因となります(〇〇石油類の表示のないものも、内容成分が不明であることからお使いにならないほうが無難でしょう)。少なくともKSCガンオイルは、大半の他社製品を含め現時点でモデルガン／エアガンに使用されているほとんどのプラスチック材料をテストし異常のないことを確認済みです。安心してお使いください

【マガジン】

マガジン後部の放出バルブを押すと、ガスを抜くことができます。つねにガス圧がかかった状態ですとシールドをしているゴム類に負担がかかり、劣化を早めることになりますので、発射後は、残ったガスを必ず抜いておきましょう。



警告

ガス放出時は、液状ガスが手や顔などに吹きかからないよう放出口の向きに注意してください。もちろん他の人や動・植物、電気製品、凍ると破損するものに対しても同様です。瞬時の冷却・凍結による凍傷・故障の原因となり危険です

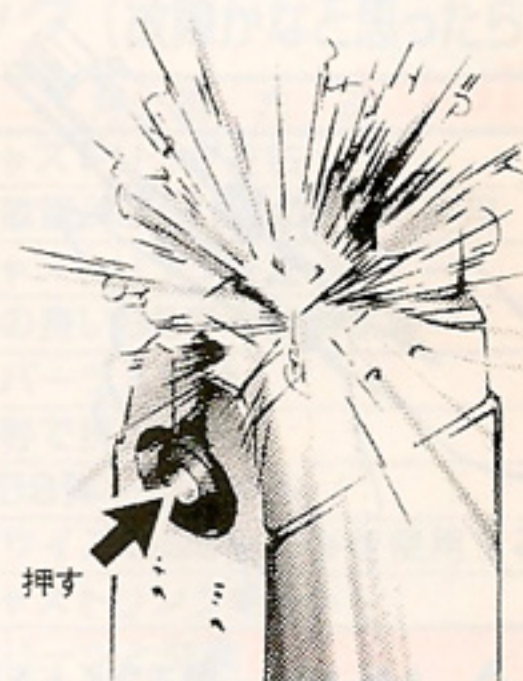
放出バルブを押した状態で放出口(=ノズルラバー)からマガジン内部へKSCガンオイルを注入してください。また、ノズルラバー上面部や、放出バルブへも注油してください。
※いずれも少量でOKです。5マガジンくらいを目安に行なってください。



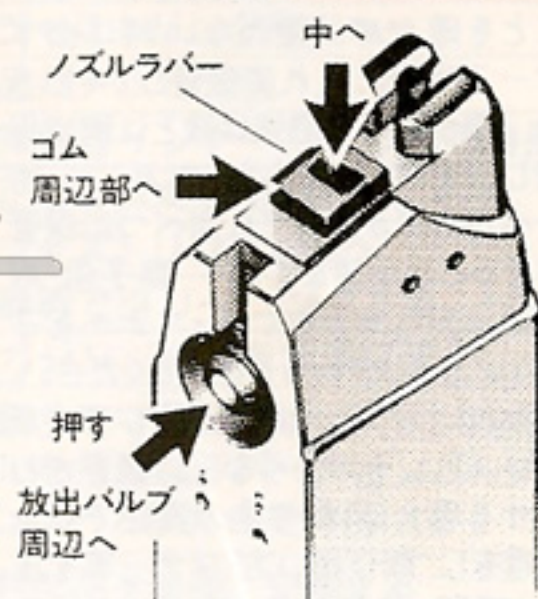
警告

《KSCガンオイル使用上の注意》

火気の近くで使用しない、40℃以上のところに置かない、など、KSCガンオイルの缶に表示されている注意内容をよく読み、正しくお使いください。室内の換気、近くにオイルがつくとまづい物がないことなどにも注意してください



KSCガンオイルを



【銃本体】

●スライド&ブリーチ部



KSCガンオイル250
(シリコン配合潤滑スプレー)
¥1,200 (250g入り)

●プラから金属までオールマイティーに使えます

スライドとシャーシのレール部、ブリーチのシリンダー用レール部は、定期的にKSCガンオイルを少量吹きつけ、作動が滑らかになるようにしてください。

注意
ピストン内部に粘性の高いグリース類等を使用すると100%不調・破損の原因になります。

●その他の可動部品

★シャーシのハンマーハウジング部など可動部品の連係する部分、スプリング類などにも時どき注油してください。

★長時間使用しない時は、特にサビの出る可能性のあるスプリング類などスチールパーツを中心に、念入りにメインテナンスしてください。

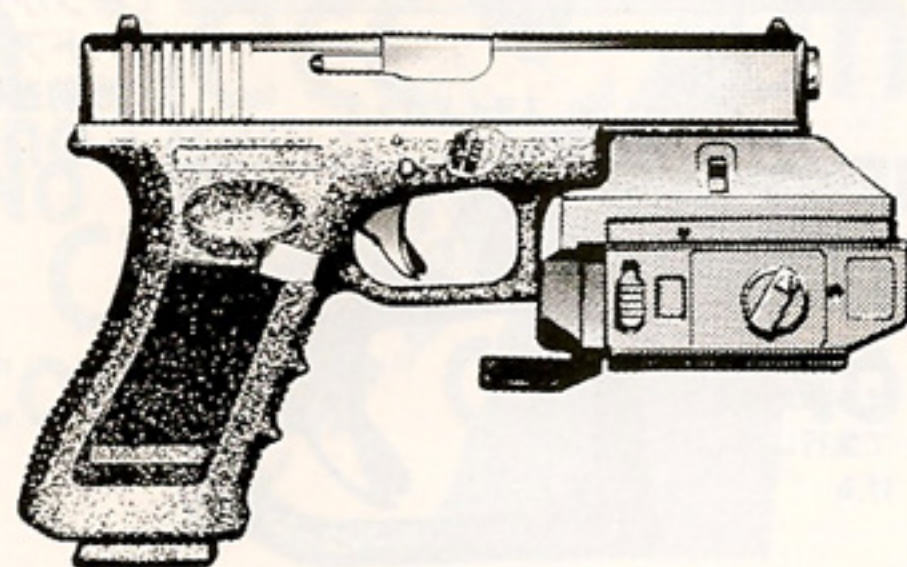
●銃のクリーニング

！ 注意

メインテナンスはガンオイルを吹きつけるだけでOKというわけではありません。ゴミ、汚れ、水分の付着は、飛距離や命中精度の低下、作動不調の原因となりうるばかりでなく、サビの発生、部品劣化の加速にもつながります。つねにクリーンな状態を保ち、愛用の銃をいつも最高のコンディションにしておきましょう

！ 警告

●エアガンは3ページ目でも触れたとおり、悪意の改造を防止するために必要最低限の強度しかありません。使用部品の材質は主にプラスチックや強度の低い金属(亜鉛合金など)です。耐久性には限りがありますので消耗品とお考えください。特にガスブローバック作動に関連する部品は磨耗や劣化がはげしく、使用回数が増えるほど寿命は短くなります ●踏んだり、幼児がのみこんでしまうといった万一の事故を考え、BB弾、部品、メインテナンス用品は放置しないでください ●**パワーアップなどの危険改造は絶対しないでください。社会に迷惑を及ぼすばかりか、銃の破損確率も高まり本人がケガをする可能性も増大し危険です。**なお、誤った使い方や改造が要因となって発生した故障・事故・事件につきましては、当社はいっさいの責任を負いません



！ 注意

●ラバーチェンバー内にはKSCガンオイル等を使用しないでください。オイルが付着しているとBB弾がスリップして正常な弾速・弾道で発射できないことがあります。

また、ラバーチェンバーの材質の関係から、オイル成分によってはゴムが膨張してくる場合もあります。以上の理由からマガジン内部、ピストンユニット部の注油は1回の注油量を必要最低限とし、定期的にこまめに行なってください(多量少頻度ではなく微量多頻度が、注油(=メインテナンス)とラバーチェンバー内部条件を最大公約数的にベターに保つポイントとなります)。なお、弾道等に影響がでるほどにオイル分が付きすぎた場合や、その日の使用をやめたあとは、ティッシュや綿棒等でチェンバー内を必ずクリーニングしておいてください ●銃身内が汚れていると命中精度に悪影響をおよぼします。綿棒やティッシュなどで定期的にクリーニングしてください

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

分解（組み立て）

エアガンは通常の場合、分解の必要はありません。弾づまりやメンテナンスの時以外は分解しないでください。



警告

●作業中に工具類や部品（特にスプリング、ボール類は飛び出してくる可能性があります）でケガをしないよう注意してください。部品・工具・メンテナンス用具は、

たとえ1個でも子供の届くところには放置しないでください。ケガや、誤って飲み込んでしまい窒息するなどといった重大な事故につながる可能性があります。●分解・組み立ての際は部品をなくさないよう注意してください。●無理な分解（組み立て）や、当説明書に説明している以外の方法は、組み違いによる誤動作・部品の破損・変形につながりますので、やめてください。

【フィールドストリップ（通常分解）】

〈組み立てる時は〉

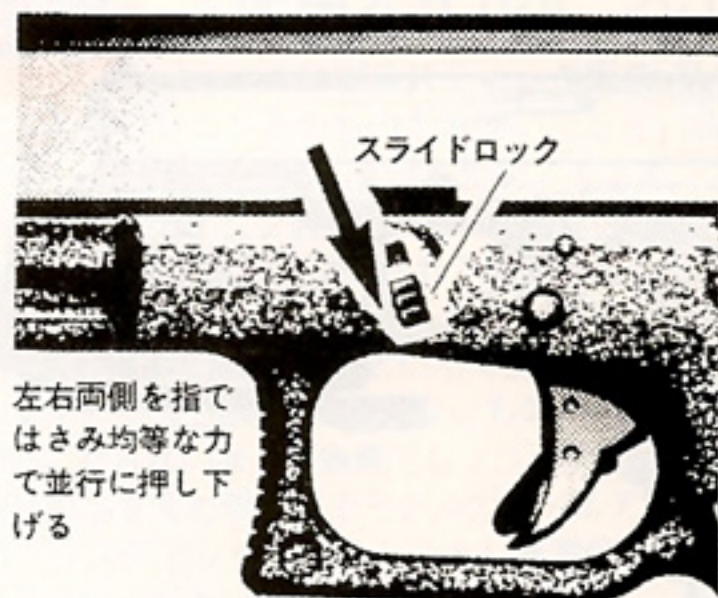
基本的に分解の逆手順（項目番号の大きい数字から小さいほうへ逆行）で行なってください。

1

マガジンを抜き、スライドを引いて薬室に残弾がないことを確認してください。（ハンマー内蔵型メカを採用しているため、分解するためにはハンマーをコックしておく必要があります。一度は必ずスライドを引いてください。）

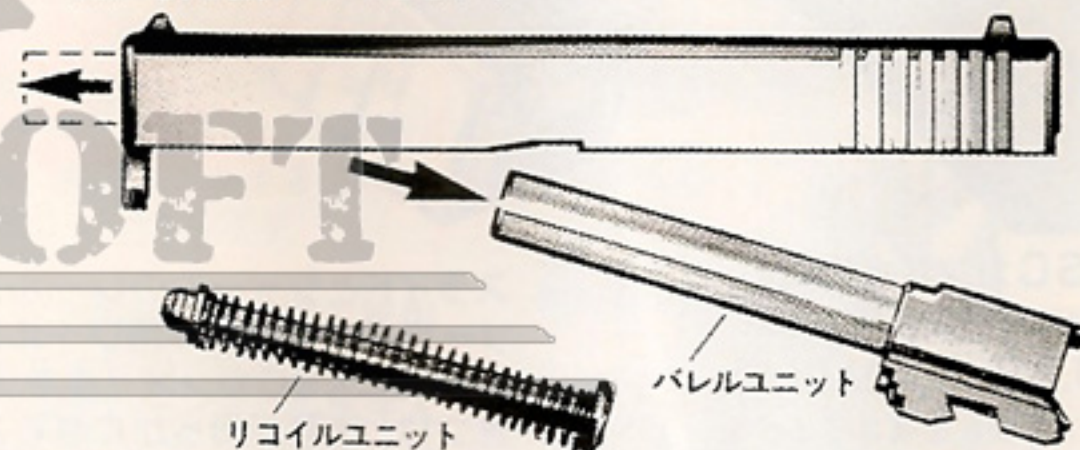
2

スライドロックを左右両側から親指と人差し指で挟み、左右均等に押し下げます。ロックが外れるとスライドアッシーが数ミリ前進します。



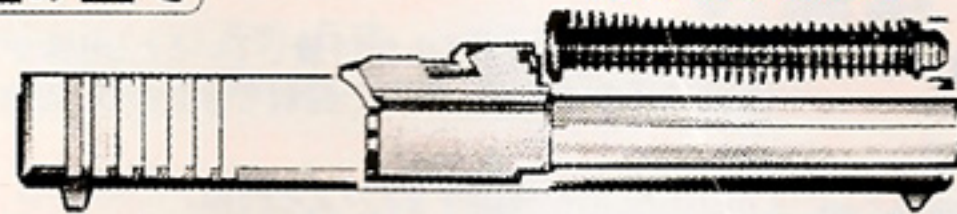
3

スライドアッシーからリコイルユニットを外します。次にアウターバレルとスライドの噛み合わせをエジェクションポート側から下方へ押して外し、バレルユニット全体を前方にずらしてピストンとの連結を外してから斜め後方に引き抜いてください。



組み立て

部品飛び出し注意



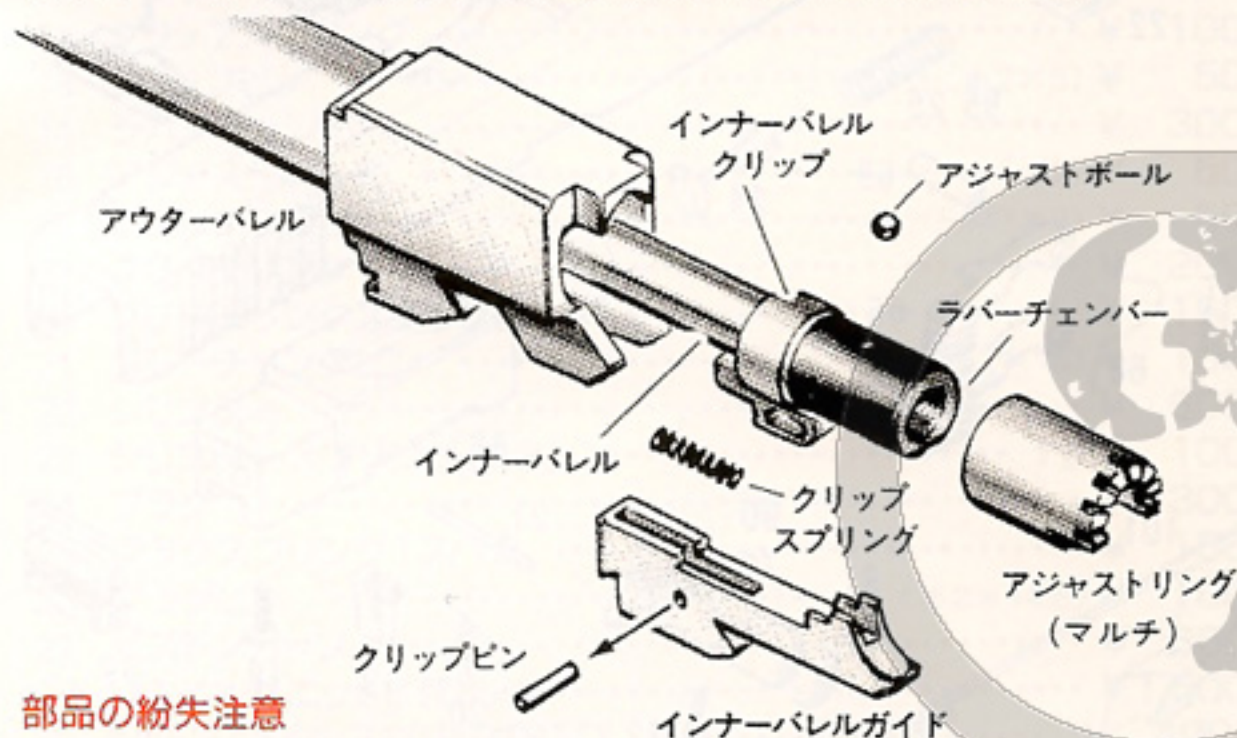
図のようにバレルユニットとリコイルユニットを定位置にセットし、ハンマーがコックしていることを確かめたのち、フレームアッシーをスライド後方から組み入れます。突起部分に引っかからないよう注意しながらずらしてゆくと自動的にスライドロックがかかり、組み立て終了です。

※ここまでで通常分解終了です。これ以上の分解は破損パーツ交換時以外、必要ありません。

【別売アクセサリ装着時の分解】

●インナーバレルのはずし方

★今後、バレル関連のアクセサリが開発されることが予想されます。その時は分解の必要性が生じる場合もあるかもしれません。ある意味で性能を左右するデリケートな部所ですので、一応、分解方法を記しておきます。(ノーマルのまま使用する限りは分解の必要はありません。)

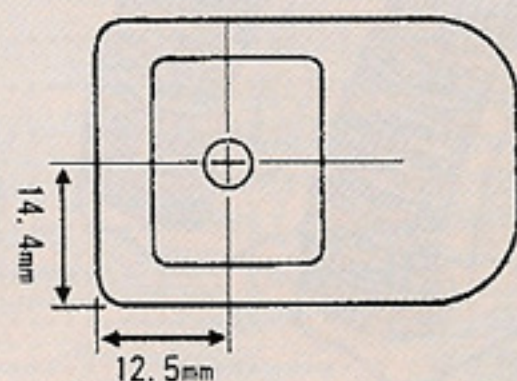


部品の紛失注意

まず、アウターバレルからインナーバレルユニットを取り出します。クリップピンを抜き、インナーバレルガイドを下方に外せば、あとはアジャストリング、アジャストボール、ラバーチェンバー、インナーバレルクリップの順に取り外せます。組み立て時は、向きや位置をまちがえないよう逆の手順で行なってください。

●マガジンベースに注入孔をあけ

外観のリアルさを損なわないためにスライド式を採用しています。ワンタッチで注入できるように孔をあけたい方は右図を参照のうえ直径5mm以上の穴をあけてください。



●ウィルコックス社ウェポンマウント、 ITI社フラッシュライトM3装着時の注意

両社製品とも銃本体との連結部の形状は単に前側から差し込んでロックするだけの形式になっています。装着が簡単という反面、ガタツキがあっても(両側から挟んで締め込むタイプのように)調整できないというデメリットも持っており、特にレーザーサイトの場合は狙点が狂い致命的となります。そこでKSCではG17のレール部をあえて「きつめ」に設計しました。これにより前述の対応と同時に、製品成形時の条件/気温差による製品収縮率の変動が生み出すガタツキの防止も兼ねています。もしお手許の製品が「きつい」場合はブラッドやプラスチックハンマーを使って何度も前後動させなじませてください。やすりなどで最初にびったりの調整をすると着脱をくりかえしてゆくうちにガタツキが出てきてしまいますので、手でやっとなじめるくらいで止めておくことが理想的です。



使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

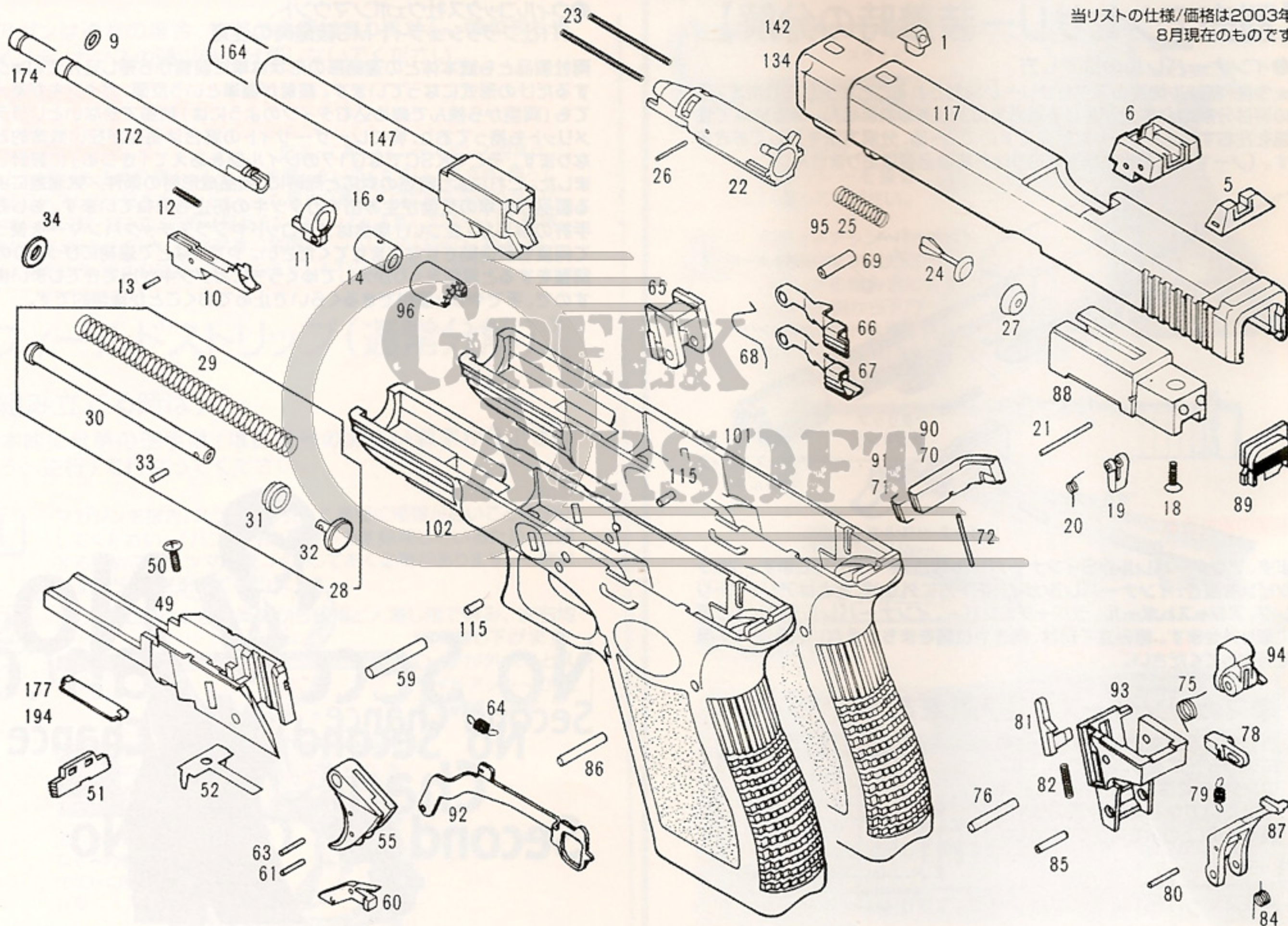
アフター

通販

実銃

パーツリスト I

当リストの仕様/価格は2003年
8月現在のものです。



KSC純正部品以外のパーツ等の使用による作動不良・故障・事故においては、修理・交換等の責任は当社では負いかねます。
仕様/価格は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください(表示価格に消費税は含みません)。



■シリーズ共用 & ブラックパーツ

1	ランプフロントサイト	¥ 500
5	フィクストリアサイト	¥ 600
6	フルアジャスタブルリアサイトSet	¥2,000
9	インナーバレルリング (φ7×1.5)	¥ 50
10	ミドルインナーバレルガイド	¥ 400
11	インナーバレルクリップL	¥ 400
12	クリップスプリング	¥ 100
13	クリップピン (φ2×5)	¥ 50
14	ラバーチェンバー	¥ 300
16	アジャストボール (φ2)	¥ 50
18	ブリーチスクリュー (F/M3×8)	¥ 50
19	ブリーチリンク	¥ 200
20	ブリーチリンクスプリング	¥ 150
21	ブリーチリンクピン (φ2×18)	¥ 100
22	シリンダー	¥ 600
23	シリンダースプリング(×2)	1コ ¥ 100
24	プラグ	¥ 300
25	プラグスプリング17/18	¥ 150
26	プラグピン (φ2×14.5)	¥ 100
27	ピストンカップ	¥ 600
28	リコイルユニットSTD	¥1,500
29	リコイルスプリングSTD	¥ 400
30	リコイルガイドロッドSTD	¥1,000
31	リコイルガイドブッシュ	¥ 200
32	リコイルガイドベース	¥ 200
33	リコイルガイドベースピン	¥ 50
34	リコイルバッファー	¥ 50
49	ミドルシャーシ	¥1,000
50	シャーシスクリュー (FL/M3×10)	¥ 50
51	スライドロック	¥ 200
52	ミドルスライドロックスプリング	¥ 300
55	スムーズトリガー	¥ 400
59	トリガーピン (φ4×29)	¥ 150
60	トリガーセフティ	¥ 200
61	トリガーセフティピン (φ2×6)	¥ 50
63	トリガーバーピン (φ2×7.8)	¥ 50
64	トリガーバースプリング	¥ 100
65	ロッキングブロック	¥ 500
66	ノーマルスライドストップ	¥ 500

67	エクステンデットスライドストップ	¥ 700
68	スライドストップスプリング	¥ 150
69	スライドストップスリーブ	¥ 200
70	ノーマルマガジンキャッチ	¥ 400
71	ロングマガジンキャッチ	¥ 500
72	マガジンキャッチスプリング	¥ 100
75	セミオートハンマースプリング	¥ 200
76	ハンマーピン (3×21.5R)	¥ 100
78	インパクトハンマー	¥ 250
79	インパクトハンマースプリング	¥ 100
80	インパクトハンマースプリングピン (1.5×10)	¥ 50
81	インパクトハンマーロック	¥ 200
82	インパクトハンマーロックスプリング	¥ 100
84	セミオートシアースプリング	¥ 150
85	シアースリーブ	¥ 150
86	シアーピン (3×25R)	¥ 100
87	セミオートシアー	¥ 300
88	セミオートブリーチ	¥ 900
89	スライドプレート	¥ 200
90	HWノーマルマガジンキャッチ	¥ 500
91	HWロングマガジンキャッチ	¥ 500
92	RPTトリガーバー	¥ 800
93	RPTハンマーハウジング	¥ 800
94	セミオートハンマー	¥ 400
95	プラグスプリング34	¥ 150
96	マルチアジャストリング	¥ 300

■バリエーションパーツ

101	ミッドサイズフレーム (ABS)	¥3,000
102	ミッドサイズPINフレーム (ABS)	¥3,200
115	フレームサードピン(×2)	1コ ¥ 50
117	G17スライド (ABS)	¥3,000
134	G34スライド (ABS)	¥3,500
142	G34HWスライド	¥4,500
147	G17アウターバレル (9×19/4.5in)	¥1,200
164	G34アウターバレル (9×19/5.3in)	¥1,300
172	インナーバレル93 (4.5inクラス)	¥1,200

(以下次ページに続く)

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

パーツリスト II アクセサリー

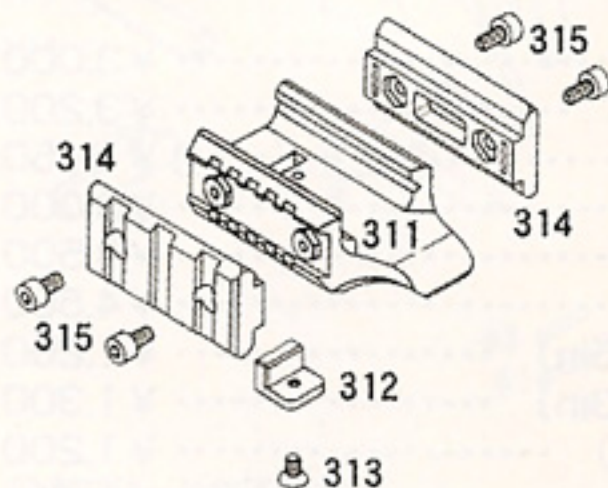
174	インナーバレル115 (5.3inクラス)	¥ 1,300
177	G17シリアルプレート (CSK588US)	¥ 200
194	G34シリアルプレート (CKS947US)	¥ 200
200	ローダーファネル	¥ 300

■マガジン

201	G17ミディアムマガジンケース	¥2,500
204	G17ロングマガジンケース	¥3,000
207	マガジンリップ	¥ 700
208	マガジンリップピン	¥ 50
209	ノズルラバー	¥ 300
210	マガジンフォロアーセット	¥ 400
213	ミディアムフォロアースプリング	¥ 400
215	ロングフォロアースプリング	¥ 600
216	放出バルブ	¥ 800
217	マガジンシール	¥ 200
219	ミディアムインナーベース	¥ 800
222	ロングインナーベース	¥1,000
224	インナーベースピン (×2)	1コ ¥ 50
226	注入バルブ	¥ 300
227	ステップマガジンベース	¥ 600
234	ミディアムベースロック	¥ 300
235	ベースロックピン	¥ 50
236	ガードプレート	¥ 200

■マルチアンダーマウント

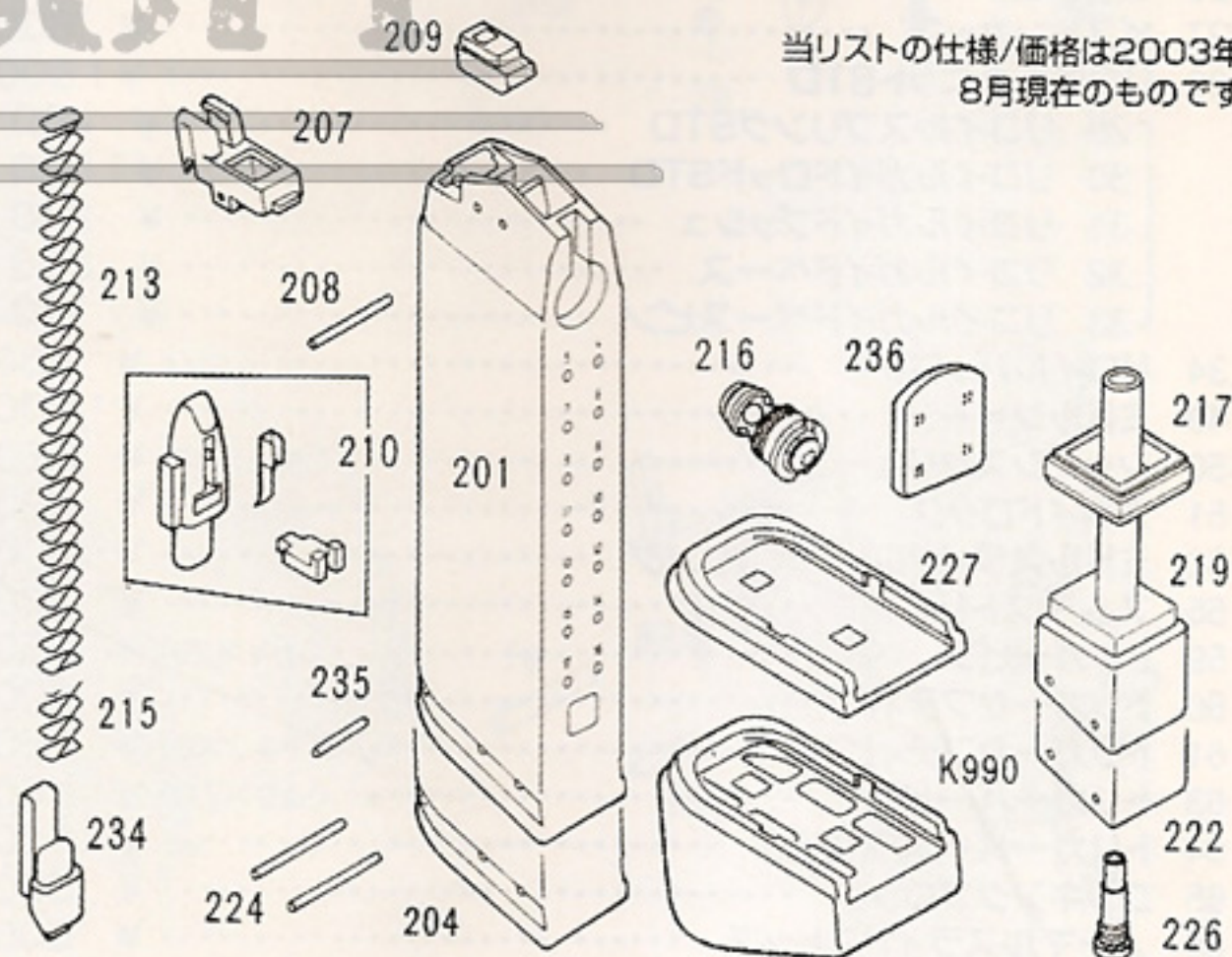
311	マルチアンダーマウントベース	¥ 1,000
312	マウントロック	¥ 200
313	マウントロックスクリュー	(M3×5) ¥ 50
314	マウントレール (×2)	1コ ¥ 500
315	マウントレールスクリュー (×4)	1コ ¥ 50



G34スライドHW用 (NO91)



★ABS用と区別するため、HW用マガジンキャッチにはイラストの位置に丸い凹みがあります。なお、材質は他のモデル同様ABS製です。



当リストの仕様/価格は2003年
8月現在のものです。

KSC純正部品以外のパーツ等の使用による作動不良・故障・事故においては、修理・交換等の責任は当社では負いかねます。
仕様/価格は改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください(表示価格に消費税は含みません)。



■アクセサリ

G150	G26	15連スモールマガジン	¥ 2,800
G160	G19	20連コンパクトマガジン	¥ 3,200
G170	G17シリーズ	23連ミディアムマガジン	¥ 3,200
B020	マイティボンベ	500(HFC134a)	¥ 1,300
B800	マイティBB	0.2g弾(2,400発入り)	¥ 700
B850	マイティBB	0.25g弾(1,500発入り)	¥ 750

■メインテナンスグッズ/シューティングツール

B030	KSCガンオイル(シリコン配合潤滑スプレー)	¥ 1,200
U500	ホップアジャスター	¥ 400
U510	0.89mmL型六角レンチ	¥ 100
U520	1.5mmL型六角レンチ	¥ 100
U530	2.0mmL型六角レンチ	¥ 100
U540	2.5mmL型六角レンチ	¥ 100
U550	3.0mmL型六角レンチ	¥ 100
U560	4.0mmL型六角レンチ	¥ 100
U620	バルブレンチ(放出/注入バルブ専用工具)	¥ 2,000

【ロングマガジン】 G180

¥ 4,500

G17など、すべてのGシリーズに使用可能な49連マガジン。気化室の容積拡大が、弾数増加だけではなく性能の高水準での安定にも貢献。マガジンバンパーつき。

【マガジンバンパー】 K990

¥ 1,000

マガジンの着脱操作をスムーズかつスピーディに行なえるよう用意された大型のマガジンバンパー。Gシリーズ全種のマガジンに装着可能。

【グリップエクステンション】

各¥ 1,000

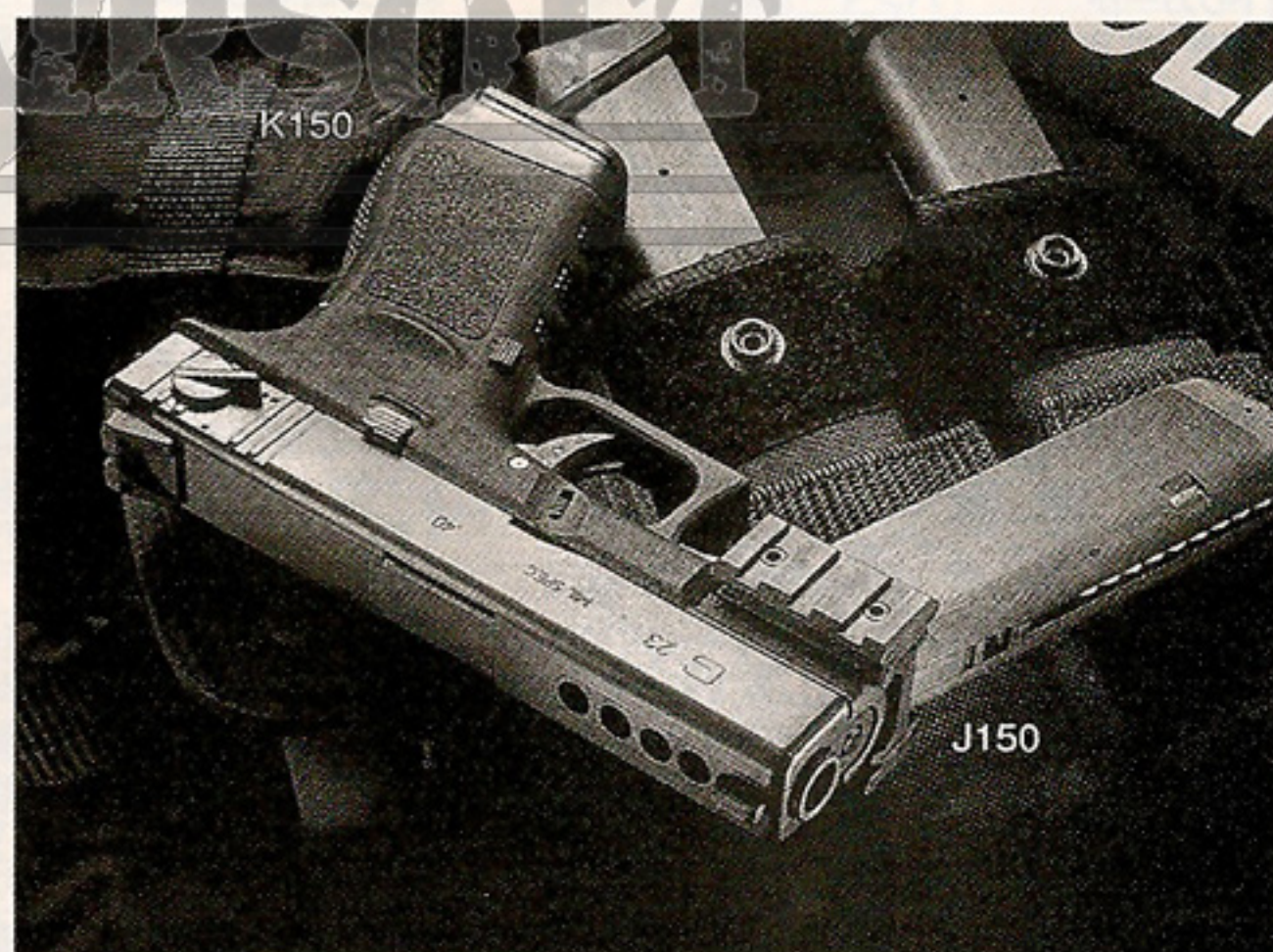
K150 G19/23Fグリップエクステンション(G17ミディアムマガジン対応)
K200 G26グリップエクステンション(G19コンパクトマガジン対応)

G19系やG26系のグリップホールドを向上させ、同時に標準装備のものより装弾数の多いワンサイズアップのマガジンを違和感なく使用するためのアタッチメント。

【マルチアンダーマウント】 J150

¥ 1,800

レーザーサイト/フラッシュライト等を左右に、下にはスペアマガジンをフォアグリップとして装備できるマルチユースのアンダーマウント。G26系以外の全種に使用可能。



使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

ワンポイントクリニック (故障かなと思ったら)

現 象	原 因	対 処 方 法
マガジンに ガス注入できない	マガジンの温まりすぎ	放出バルブを押してバルブを開放し内圧を上げる。マガジン温度を常温にもどしてから再注入
	ボンベ内のガス量/圧力不足	新しいボンベを使う
	注入バルブの破損	新品パーツと交換
マガジンからの ガスもれ	放出バルブのOリング冷却収縮	冷えすぎてOリングが収縮しシールド不良になった時は、バルブのシャフトを引っぱり出し、マガジン温度を正常にしたのち使用
	オイル不足による密閉不良	オイルを注入 (メインテナンスのページ参照)
	注入/放出バルブの破損	新品パーツと交換
マガジン キャッチが かからない	指定数を超える弾が入っている	指定弾数以内にへらす (無理して押し込むとシリンダー部やスライド等の破損・変形につながるので注意)
	マガジンケースの変形	いずれの場合も新品に交換
	マガジンキャッチの磨耗	(スプリングのヘタリが原因の時もあります)
BB弾が薬室に 入って行かない	マガジンリップ、フォロアー、 シリンダー前部、チェンバーの フィーディングランプ部、 ラバーチェンバーの変形	いずれの場合も新品に交換 (BB弾の変形、サイズの バラツキ等に不調原因があ る場合も考えられます)
スライドが 閉鎖しない	BB弾の送弾不良	上項参照
	リップ、シリンダー先端部の変形	変形を修正。または新品と交換
	オイル切れ	シャーシとスライドのレール部、ブリーチ下部、ストライカー部に注油する
トリガーが 空振りする (ハンマーが 起きない)	ハンマーが起きていない	スライドを引いてハンマーを起こす (薬室に送弾されている時はマガジンを抜いたのちに行なうこと)
	スライド後退 (ガス圧) 不足	ガス補充。弾倉の冷えを改善 (7ページ参照)
	ハンマー/シアー/トリガーバー (ディスコネクター部) の変形	いずれも新品パーツに交換 あるいは修理に提出
トリガーが 引けない	トリガーセフティがかかっている	セフティをオフにする
	指がセフティを押していない	トリガー下部のセフティに指をしっかりとあてる
トリガーが 戻らない	トリガーバースプリングのヘタリ	新品に交換する
	トリガーバーの変形	新品に交換 (トリガーのミゾの変形にも注意)
ハンマーが 落ちない	シアー周辺部品の変形・磨耗	いずれの場合も新品に交換。どの部品が
	トリガーバーの変形・磨耗	悪いかわからない時は修理に提出 (スプリングの場合、
	トリガーバーSPののび	ヘタリ=バネの弱化が原因の時もあります)
BB弾が 発射しない (ハンマーが 落ちてガス が出ない)	マガジン装着不良	正しくロックするまでマガジンを押し込む
	プラグSPのヘタリ・変形	新品パーツに交換
	ラバーチェンバー部での停弾	ポップアップの項のワンポイントクリニック参照 (14ページ)
	ガス切れ、ガスもれ	マガジンにガスを注入する。ガスもれの際、オイルをつけても改善できない時は修理に提出
	ガスのパワー過剰	真夏の屋外など高温の環境によるガス圧の異状上昇が原因。ガスをいったん放出しマガジン温度を下げて再注入
	マガジン内での弾づまり	異物の混入、フォロアーの変形、BB弾が小さい、などが原因。異物は取り除き、新品に交換
引金をひくと ガスが全部でる	インバクトハンマー作動不良	不良パーツを交換 (放出バルブ、マガジンケースに異状がある場合もあります)
	マガジン内のガス圧不足	ガスを補充し、マガジンが冷えている場合は常温にもどす
	ピストンカップの劣化	注油後も改善できない場合は新品と交換。シリンダーがヒビ割れしていることもあるので要チェック

★表記以外の故障場合、単独の原因ではなく大半が複合の原因によるものです。そのため対処方法を断定できません。お買い上げのお店へお持ちいただくか当社へ直接お送りください。
★新品パーツと交換する場合、分解・組み立てによる自信がある以外は、お買い求めの販売店がKSCに修理依頼をしてください。無理な分解・組み立てによる新たな破損、パーツの紛失、組み違いによる新たな不調を引き起こす要因となります。

★エアガンの主要材質であるプラスチック、Znダイカスト (亜鉛合金)、ゴム類は耐久性 (強度) の低い素材です。そのためそれらで製造された部品 (特にガスブローバックに関連する可動部品) は耐用期間に限りがあります。消耗品とお考えいただき、ご了承ください。なお耐用期間は同一の部品でも使用回数、メインテナンスの頻度、管理状態によって大幅に異なります。

エアガンは100%修理可能です。動かなくなったからといって捨てたり押入れにしまいこむ前に、もう一度元気にしてあげてください



現 象	原 因	対 処 方 法
弾が銃口からポロツと落ちる	ラバーチェンバーの磨耗 2発以上送弾してしまう	新品に交換 マガジンリップかマガジンフォロアーの変形が大半の要因なので異状パーツを新品に交換
弾道がバラつく (弾道が曲がる、命中精度が悪くなる)	BB弾の異状 バレル関連部品の異状 部品相互のナラシ不足 ポップアップ調整不良 グリップホルドが甘い	弾の大きさのバラツキ、キズ、変形がなく、真球度の高いものを選ぶ。KSC純正BB弾を使用 ラバーチェンバー、インナーバレル内部にキズ、変形がある場合は、新品パーツと交換 スライドとフレーム、スライドとバレルなど可動部の動きを、注油・水ペーパー等による磨きで滑らかにする ポップアップの項の調整と試射セクション(14ページ)参照 手首がぐらつかないようしっかりとぎって撃つ。ツーハンドホルドがベター
弾速が遅い (射程が短くなった)	ガス量不足/パワー不足 マガジンの冷えすぎ ラバーチェンバーの異状 インナーバレルの汚れ BB弾が小さすぎる ピストンカップの磨耗 シリンダーのヒビ割れ ブリーチスクリューのゆるみ ポップアップ調整のしすぎ ノズルラバーの変形・磨耗 プラグスプリングの異状	ガスをマガジンに補充する 掌で温める、しばらく放置するといった無理のない方法で常温にもどす(=ガス圧を回復させる) オイルがついていれば綿棒などで拭き取る。磨耗している時は新品パーツに交換 綿棒などで拭き取る 適正のBB弾=KSC純正のものにかえる 新品パーツに交換(単にオイル切れの場合もあります) 新品パーツに交換 しっかり締めなおす。(場合によっては微量のネジロックで固定しても良い) アジャストリングを右方向にまわす(ポップアップの項参照) ガスもれがおこることによって弾速が低下するので新品と交換 新品に交換(変形がひどい場合はラバーチェンバー側に飛び出すこともあるので注意)
フルオートになってしまう	トリガーバー、シアー、インパクトハンマー、関連部品の変形・磨耗	いずれのパーツも異状部品を新品に交換 (不良部品を特定できない時は修理に提出)
弾が出たり出なかったり2発同時にしたりする	マガジンの冷えすぎ ブリーチスクリューのゆるみ BB弾の不良・変形 マガジンの不良・破損 ポップアップのかけすぎ	常温になるまで放置するか掌であたためる しめなおす。 正常なBB弾のみ使用する マガジンリップかマガジンフォロアーの変形が大半の要因なので異状パーツを新品に交換 アジャストリングを少し右方向にまわす
スライドストップがかからない (スライドの動きが悪い/閉鎖不良がおきる)	弾倉の冷えすぎ/ガス量不足 ピストン部のオイル切れ ブリーチスクリューのゆるみ シリンダーのヒビ割れ トリガーバーの作動不良 マガジンフォロアー磨耗 マガジンのノズルラバー異状 スライドレール部のネバリ ピストンカップの変形 スライドストップSPの変形 グリップホルドが甘い	常温にもどるまで使用を中断しガス圧の回復をはかる。ノズルラバー部に注油する。ガスを補充する オイルをさしても改善できない場合、ピストンカップの劣化に原因があることが多い→新品に交換 しっかり締めなおす 新品パーツと交換 スライドの動きにデメリットになるようなキズがないかチェック→キズ等があれば新品パーツと交換 新品パーツと交換(フォロアーが正常位置まで上がらない時は装弾部をクリーニングする) オイルをさしても改善できない時は新品パーツと交換 スライド/フレームのレール部に注油しても改善できない時は修理に提出 スライドが途中で止まってしまう時はカップとシリンダーが噛んでいる可能性あり。カップを新品に交換 新品に交換 手首にしっかり力を入れてぐらつかないよう固定して撃つ。ツーハンドホルドが理想的

使用前
マナー
操 作
ホップ
保管他
手入れ
分 解
パーツ
アクセ
故障?
アフター
通 販
実 銃



アフターサービス (修理のお申し込みは…)

可能な限りの迅速な対応を
させていただきます。

- 銃が不調の時は「ワンポイントクリニック」でチェックしてください。それでも改善できない場合は、お買い上げ店にお持ちいただくか当社へ送りいただくかのいずれかの方法で、修理申し込みをしてください。
- 具体的な故障内容、修理を希望する内容、予算に限りがある時は修理費用限度額、お客様のお名前・ご住所・お電話番号を明示してください。
- 当社へ送りいただく場合は、宅配便か郵便小包でお送りください。原則として送りいただく際の送料はお客様のご負担となります。
- 有料の場合の修理終了時には、代金引換便にて発送します。
- 当社到着後1週間以内で発送できるよう修理作業を行なっていますが、夏休み・年末年始の時期や修理申し込みが多い時は、2～3週間かかる場合もあります。あらかじめご了承ください。(なお、3週間以上かかる場合=修理パーツ品切れ時などはハガキにてご連絡いたします。)
- 修理品ご返却時には必ず、修理内容・代金等の詳細を記した「修理カード」を添付していますので、受領時にご確認ください。
- 万一初期(新品)不良があった場合は販売店にご相談ください。当社での直接対応をお望みの際は、不良箇所の改善はもちろん無償ですが、送料のみご負担いただく場合もありますので、あらかじめご連絡ください。

★お近くのKSC製品販売店(またはKSCに直接)への修理申し込み時には、右の表内容に準じて明示いただくか、コピー(拡大可)して記入し、店頭へお持ち(またはご同封)ください。

送り先：〒400-0126 山梨県中巨摩郡敷島町大下条1616

KSC アフターサービス部 (電話受付10時～5時)

TEL. 055-277-2365 FAX. 055-277-6978

- 安全性に問題のある改造品、改造パーツの組み込まれた製品は、基本的には修理はお受けできません。**やむなく修理せざるを得ない場合、それらの部品をすべてKSC純正品にかえさせていただき、改造パーツは処分させていただきます(その際の部品代金は有料となります)。



警告

当モデルに限らず、市販カスタムパーツのなかで銃の主要部品(スライド、フレーム、薬室部一体型銃身など)を金属で製作したものが一部で出廻っているようですがそれらを装着すると、銃刀法上での違法品という扱いを受ける可能性があります。(特に拳銃はその可能性が高く、)最悪の場合は処罰されることも予想されますので、絶対使用しないでください。また、当社純正品以外のカスタムパーツを取り付けた場合、不調を招くこともあります。ご注意ください。なお、当社純正品以外の部品に直接的・間接的故障原因があると想定された場合、メーカー責任の範囲外にあるものと判断させていただき、アフターサービスの対象から外させていただきます。いっさいの修理はお受けいたしませんのでご了承ください(上記項目もよくお読みください)

KSC製品 修理依頼書

年 月 日

氏 名			TEL	
住 所	〒 -			
銃 名				
故障内容				
修理(部品交換)の希望内容(故障箇所以外のご希望があれば書いてください。)				
(修理費用限度額、その他連絡内容)				

お近くにKSC製品取り扱い店がない時は…

通信販売のご案内です。
品切れ時以外、翌営業日には発送します。



★現金書留による申し込み方法

- ご注文の商品名、ご住所、お名前、お電話番号を明記のうえ、品代金+消費税+送料を現金書留(または為替)にて下記へお送りください(送金額が¥2,000以下の場合は切手でも可)。
- お買い上げ商品総額が1万円以上の時は消費税・送料をサービスさせていただきます(国内のみ)。
- 品切れの場合もありますので、あらかじめ在庫の有無をご確認ください。
- ご注文の際は商品名を正確にお書きください。特にバリエーションがある銃の場合は、銃身長・仕上げ色・材質等も商品名の一部として表示しています。これを書き忘れるとご注文の品を特定できませんので、忘れずにお書きください。

★郵便代金引換便(着払い便)をご利用希望の方は、電話またはFAXでもご注文をお受けします。(FAXの場合も現金書留による申し込み方法を参照してください)

★KSCへ直接、部品をご注文なされる場合は、右の表内容に準じてメモ等に明記いただくか、表をコピー(拡大可)して記入し、ご同封(着払い郵便希望の場合はFAX)ください。

送り先：〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-39-3 ISONO第2ビル2F
KSC 通信販売部

T E L : 03-5977-8977 F A X : 03-5977-8755



●送料について……

送料(宅配便送料+梱包

費用)は日本国内どこでも一律¥800

(低額商品・軽量商品は一括¥300)です。

- 代金引換便(=着払い便)ご利用の場合…上記送料以外に、郵便局にお支払いする代引手数料¥300(1万円以下の時は¥200)特別郵送料¥250の計¥550(1万円以下¥450)もかかります。ご了承ください。

KSC製品(部品)注文書

年 月 日

※部品以外の製品ご注文の際は、表のパーツNo/パーツ名の項は無視してご記入ください

氏 名			T E L	
住 所	〒 -			

銃 名	パーツ No.	パ ー ツ 名	(価 格)	個 数	合 計 額
			(¥)		
			(¥)		
			(¥)		
			(¥)		
			(¥)		
			(¥)		
合計額(部品総額+消費税+送料)			部品総額(=小計) ¥		
¥			← 消費税(小計×0.05) ¥		
			送料(梱包費含む) ¥		

連絡事項

使用前

マナー

操 作

ホップ

保管他

手入れ

分 解

パ ー ツ

アクセ

故障?

アフター

通 販

実 銃

KSC REAL GUN INFORMATION

ガストン グロックの野望

1983年。オーストリア国防軍は、トライアルの結果、新制式拳銃“Pistole 80”にグロック社のモデルを選抜したことを発表した。このニュースは世界中の銃器関係者を大いに驚嘆させた。オーストリアといえばスタイヤー社という独占的超大手銃器メーカーがあり、同社のP118（改良され後にGBとなる）が最有力視されていたからだ。さらにトライアルには、HK社のP7M8/P7M13、SIG社のP220/P226、ベレッタ社のM92SB-Fなども名を連ねていた。当然、専門家の眼はそちらへ向き、グロック社に対しては「トライアルに変なのが入っている」程度の興味しか示していなかった。オーストリア軍や（当時）西ドイツの対テロ特殊部隊GSG9に制式採用された軍用ナイフのメーカーであることを一部の兵器専門家が知っている位で、まして銃器開発は初めてという。名立たる世界レベルの一流メーカーを蹴散らしそんな無名メーカーの製品が選ばれたのだから、しかもポリマー（＝プラスチック）製フレームだというのだから、その驚愕たるや困惑を誘うほどの衝撃だった。無名であるがゆえにその反響は大きく、グロック社は、その直後から激震を伴いながら世界中の銃器専門誌にクローズアップされることとなった。

さかのぼって1963年。グロック社は当時34歳のガストン グロック（Gaston Glock / 1929年生まれ）の手によって設立された。ドアノブやヒンジなど産業用下請け部品の製造から始まり、医療技術部品にも手をのびた。60年代後半からミリタリーやポリス関連製品にウェイトが移ってゆき、プラスチック外被の手榴弾、マシンガン用のプラスチック製フィードングベルト、そして前述の軍用ナイフ（G78フィールドナイフ / G81サバイバルナイフ）、オーストリア軍用ベルト、軍用の折たたみ式シャベルなども生産するようになる。「合成樹脂（＝ポリマー）がスチールにとって代わり得ることを、50年代には予感していた」とグロック氏が言うように、社の得意分野はプラスチック成形と金属プレス成形だった。もともと銃器や射撃に関した知識や興味を氏が持っていたこともあってか、ナイフなどで軍とのコンネクションのあったグロック社は、関係者から「次期制式ピストルトライアルに参加してみないか」と誘われる。1980年のことだった。

当時、オーストリア軍は、1955年の中立国としての国家再建後に始まった軍備の国産化と近代化が、やっとサイドアームの拳銃にまでたどりつこうとしていた。それまでのP38やP11（＝M1911A1）が旧式化してきたことと弾薬の統一という点もあっての「新制式拳銃トライアル」だったわけだ。グロック社は正式にトライアル参加を表明。設計技師でもある社長自らが陣頭指揮を執って開発・設計に当たった。実際に拳銃を使用している軍・警察

の現場の声を聴き、自らの射撃経験上で銃に対し不満だった部分を改善する案を次つぎに打ち込んでいった。そうすることで次第に新型拳銃のアウトラインは固まってゆく。さらに専らプラスチックとプレスのノウハウを生かせば、グロック社ならではのモデルが誕生する。そんな確信のもとに、開発は恐ろしいほど精力的に進められた。準備段階から4ヵ月には設計案がまとまり、その2ヵ月後には試作第1号が完成。このスピードは驚異的であり、加えて銃器の設計・試作を1度もやったことがなかったという事実を考えると、まさに天啓といえた。改良試作ができるたびに軍に持ち込み意見を聴き、次の改良にとりかかる。そんな時期を経て、1982年初頭、トライアルを受けるために数挺のプロトタイプを軍に提出。トライアルは17項目の条件にすべてパスする必要があり、その中には、15,000発の連続耐久テスト、弾薬別の適応力テスト、7mから鉄板上への落下テスト、60℃～-40℃での動作テスト、泥、砂、塩水、……と苛酷を極めていた。結果、1983年、制式拳銃の座を獲得。25,000挺の契約が交され、1985年に納入されることとなる。

1982年、軍へ最終プロトを提出した段階で制式採用の手ごたえを既に感じ取っていたグロック氏は一般の銃器市場においても成功を納める自信を深めていた。氏の野望は軍制から世界を視野に入れた営業戦略へと拡大していった。同年「グロック17」の市販名で欧市場にデビュー。1984年から85年にかけてはノルウェーとスウェーデンが制式採用を求めている。銃が金属製の場合、直射日光下では熱くなりすぎ、極寒地では濡れた手や手袋触ると凍って貼りついてしまうというのが、宿命的な欠点だった。プラスチック製の場合にはなく、両国が採用を決めた大きな理由のひとつにもなっていた。同じ頃、シリア、ヨルダン、ベネズエラ、フィリピン、インドの各国がVIP護衛部隊用に、西ドイツGSG9、オーストリア特殊部隊コブラと連邦警察、カナダ特殊部隊にも採用されている。熱帯／寒冷地という国々ばかりなので、同様の採用理由があったのではと推測しても、あながち嘘にはならないだろう。

GLOCK INC.

ヨーロッパを中心に劇的なほど華やかに営業成績を伸ばしていたグロック17。（この17という名称は、装弾数の17発からきているというのが通説になっている。しかし、その意味あいも含めていただろうが、この銃で獲得した17件の特許数に因んでいるというのが本当のところらしい。）当然のことだが、世界最大の銃器市場であるアメリカ進出を遂げないグロック氏ではなかった。82年、開発終了からNATO標準制式を決めた85年までに、アメリカの銃器輸入業社から36件の契約打診を受けていた。その中にはアメリカ国



プロト1
（試作第1号）
フレームもブラ
のブロックから削り出された100%
手作りのモデル。主にメカニズムや
作動面のチェック用として造られた。
スライドの外形断面はグロック独特
の角型ではなく一般的なカマボコ型。



プロト2
（試作第2号）
フレーム、マガジ
ン、トリガーなどの、金型成形による
プラスチックが完成。いわば量産試作
といって良い段階だが、完成度が高
かったからか、プラスチックにおいては
一部の修正のみで量産に移行している。



プロト4
（最終試作型）
プロト3に対する
軍の要求を取り入れて製作した最終
改良型。量産モデルとほとんどイコ
ールに仕上がっている。プロト3で最
有力視されていたが、このモデルで
制式の座を決定的なものとした。

省も入っており、83年後半に4挺のサンプルを送っている。後にベレッタM92Fを採用することになる“XM9パーソナルディフェンスピストルトライアル”への参加要請も翌年にあったのだが、グロック社は「対応の準備ができていない」として辞退している。(もしここで参加していたなら、その性能から見てグロック17が92Fに代わってM9ピストルの座を勝ち取っていたのかもしれない。)こういったアメリカの反応を感じつつ、グロック氏は、営業を相手まかせにする代理店への輸出ではなく、直系の子会社をアメリカ国内に設立する決心を固めていた。

94年末、アメリカ在住のオーストリア人で、アメリカ銃器業界に精通しており、輸入業のガンサウス社のスタイヤー社製品担当マネージャーでもあったカール・ワルターをヘッドハンティング。子会社設立時には副社長のポジションを約束して、準備を始めさせていた。翌、85年1月、ジョージア州アトランタ郊外のスマーナという町に新会社を設立すべく、同町に準備事務所を開設。その矢先、グロック社にとって嬉ばしくない事件が起きる。「過激な悪名高いリビアのガダフィ大佐がグロックピストルを買い込んだ」という報道を皮切りに、「プラスチック製のグロックは空港の機内持ち込み検査のX線にも反応せず、ハイジャッカーにとって願ってもない銃」といった、間違いと悪意に満ちた報道が相次いだ。外国製品を排斥する一部の活動とオーバーラップし、まさにグロックバッシングだったこの動向は、翌年まで続いた。しかし、事実無根であったことと、マスコミならではの過激さから、結果的に見れば報道という手段による宣伝となり、無名のグロック社はコルト社やS&W社のように一般市民にも知られたガンメーカーとなってしまった。この「有名(?)」なグロック17を銃器愛好者が放っておくはずはなかった。グロック社がアメリカ進出を始める前に、既にアメリカ国内でのニーズは熟しきっていた訳だ。そして同年7月、いよいよ米国BATF (Bureau of Alcohol, Tobacco and Firearms=酒類・タバコ・銃器管理局)に輸入許可申請を提出。BATFは以下の2点の改良を要請。1)アメリカでは銃の最主要部品(母体となる部品)をフレームと設定し登録管理をしていることから、フレームに永久的に外れない金属プレートを設けシリアルナンバーを入れること→グロック社はトリガーガード前方のフレーム下部に設置。2)輸入認可ポイントシステムの合格ライン74点に僅かに足りないのを改善すること→重量については1オンスにつき2点が与えられていた。グロック17の場合、重量が数g増えることでクリアできることが判ったため、急きょリアサイトを固定式から可動式(上下のみ)にして対応(このリアサイトはグロック氏が週末に一気に設計したこと、から、「ウィークエンドサイト」とも呼ばれている)。同年11月、BATFから「翌86年1月10日付で正式に認可される」旨の内示を受ける。時を同じくして、近年中に量産工場の稼働も考慮に入れたうえで準備を進めていた新会社“GLOCK INC. (以

下、オーストリアのグロック社と区別するためグロックUSAと表示)”を創立。12月1日付で挨拶状を業界筋に送付し、本格的な営業活動へと入ってゆく。

公用のビッグウェイヴ

1986年1月10日、輸入許可が下り、同月下旬に第1便が上陸。全米各地へ出荷されるが、まさに“焼け石に水”状態。品切れ品薄状態が続いた。そんなさなかの3月、カンサス州コルビー警察からオフィシャルユースとしては初のオーダーが入る。さらにフロリダ州フレグラー郡警察、ミネソタ州セントポール市警察と、各地の警察・公的機関によるグロック17(以下G17と略す)の採用が相次いだ。そしてその流れは87年のマイアミ市警察の1,300挺、89年ニューヨーク州警察の4,300挺といった大口採用へとつながってゆく。ニューヨーク(市)、マンチェスター、ボストン、ダラス、サンフランシスコ、フィラデルフィア、シアトル、フェニックス、サンディエゴ、ワシントンDC……。採用の大きな波は瞬く間に全米へと広がっていった。さらに、ボーダーパトロール、マーシャル、DEA(麻薬取締局)、移民帰化局、国税局、税関、郵便警護官、等々。グロックピストルを採用した部署・機関はかなりの数にのぼった。(オフィシャルユースを優先的に出荷させざるを得ないため、その間、一般市場では常に品薄状態が続き、一部ではプレミアまでついてしまっていた。)

こういった公的機関による採用の流れの中で、警察側からマイナーチェンジの要求も生まれている。長年ダブルアクションリボルバーを使い続けて来た警官にG17を使わせると、トリガープルとストロークの違いから、つい暴発させてしまうことが多いので、改善して欲しいというものだった。これはG17に問題があるのではなくリボルバーをオートに変えた事に原因があった訳だが、対応策としてグロック社は2つの方法を考案している。①ボリスコネクター→マイアミ市警から依頼。標準のトリガープル5ポンドに対し、コネクターランプの角度を変えることで8ポンドとした。87年秋以降、警察への納品モデルの標準仕様になる。②ニューヨークトリガースプリング→ニューヨーク州警より「リボルバーに似たトリガープルの感覚が欲しい」との要請。コイルのトリガースプリングをポリマー材に金属を貼りつけた板バネ状のものに変更。引き味を似せ、プルも1.5~2.5ポンドほど重くなっている。

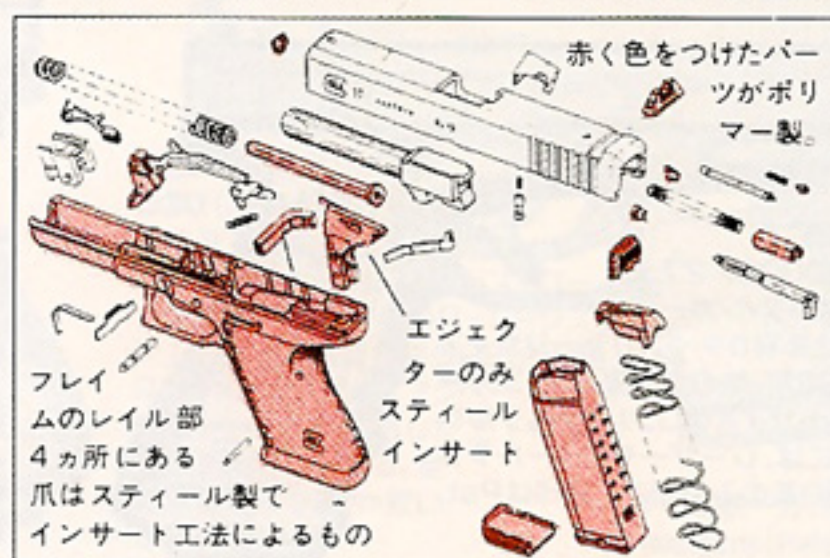
ヨーロッパデビューから9年、アメリカ上陸から5年。1991年春のグロック社発表によると、グロックピストル総出荷数・約35万挺、そのうち軍・警察などの公的機関での制式採用数22万挺、40数カ国、3500を超える連邦・州・地方の警察・公安部門で採用、とのこと。(1999年現在、生産数は200万挺を優に越えたとの情報もある。)このデータはハンドガンとしての成功例としては脅威的数値であり、おそらく第2次大戦後の拳銃史上で1~2位を争うのではないだろうか。ガストン・グロック氏の野望は、見事なまでに現実となったわけだ。この成功は、単にマスコミが逆宣伝的報道をしてくれたからではない。操作が簡単。軽量。リコイルがマイルドで撃ち易い。命中精度が良い。安全性も高い。装弾数は17+1発でハンドガンのなかでも最多クラス。しかも安い(アメリカ発売当時、G17は\$441、M92F=\$685、P226=\$628、ガバメント=\$526だった。同カテゴリーでは他の銃より30%以上安い計算になる)。となれば、爆発的ヒットとなるのは当然の帰結。実力以外の何者でもない。グロック以降、今日までにグロックのコンセプトを踏襲した新作は十指をこえるが、グロックに肩を並べるほど営業的成績をおさめた銃は、まだない。

グロックこそ20世紀最後の大傑作といえるだろう。



Pistole 80

1983年オーストリア軍制式採用。その後、G17はノルウェーやスウェーデンにも採用され、85年後半にはNATO軍スタンダードサイドアームとしても登録された。NATOストックナンバーは1005-25-133-6775。



使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

基本デザインの推移

G17がウルトラヒットして市場に浸透するに従い、より多くのユーザーに満足を与えたと同時に、彼らに次回作への新たな欲求と期待



1stジェネレーション

'82年から'90年頃までのG17、G18、G17Lの基本形状。'82年のG17には薬室上部に大きくGの刻印あり、'86年までの銃身外形は13.4mm（シルバー色）だったが米国上陸第2陣からはG18の開発や強装弾の使用も考慮し14.4mm（黒色）に。フレームにはグリップ全周とトリガーガード前面部にマット状のシボが入っている。図は初期型。アメリカ進出時にシリアルNo. プレート、右側面グリップ上部にGLOCK, INC., SMYRNA, GA.の刻印（ヨーロッパ向けはワク内無地）、下部にUS Pat. 4,539,889の刻印を追加している。



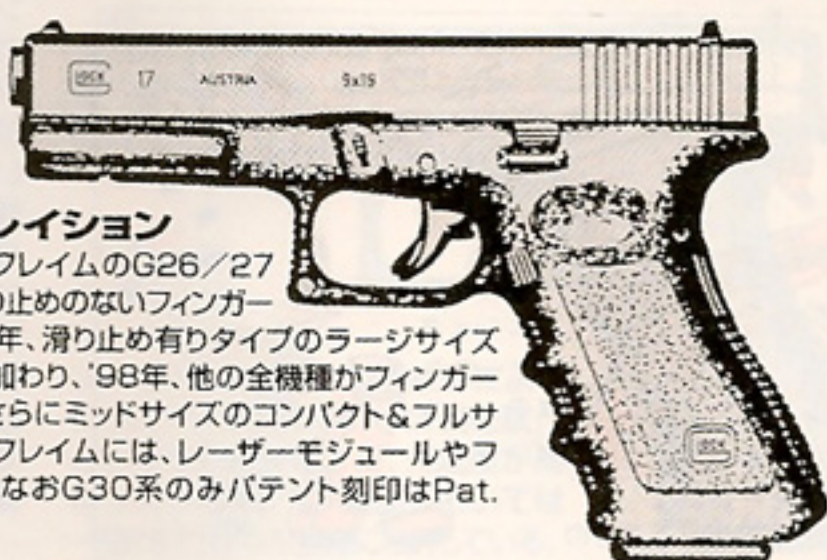
2ndジェネレーション

'88年発売のG19、仕様変更G17/18/17L（'89~'90年）、G20~G25、G31~G35の各種の基本形状。グリップ部前面・後面、トリガーガード前面に階段状の滑り止め新設。'90年のG22/23発売まではトリガーガード角に①②③のモデル名も追加されていたが、以後、共用化のため埋没。'91年、住所刻印に生産国表示（上行）が増え2行に（欧州仕様は下行にGLOCK Ges.m.b.H.が入る。G20/21は最初から2行）。'92年頃からシリアルNo. 英字が3個に。ミッドサイズグループ用マガジンベース肉厚化。'93年よりパテント刻印も4.825.744 4.893.546の1行が増える。



3rdジェネレーション

ミッドサイズ/スモールフレームのG26/27の登場（'95）で階段状滑り止めのないフィンガーチャンネルつきグリップがデビュー。'97年、滑り止め有りタイプのラージサイズ/コンパクトフレームG29/30が戦列に加わり、'98年、他の全機種がフィンガーチャンネルつきにマイナーチェンジする。さらにミッドサイズのコンパクト&フルサイズフレーム、ラージサイズのフルサイズフレームには、レーザーモジュールやフラッシュライト用のレールも加えられた。なおG30系のみパテント刻印はPat. Pendが増えて3行になっている。



をも抱かせた。ニーズに応えるべく、グロック社はバリエーション展開を推進してゆく。1986年、オーストリア軍特殊部隊コブラからの要請でセミ&フルオートのG18を開発。1988年、コンパクトモデルのG19、コンパクトシューティング競技指向のG17Lを発表。以後、次々と新機種を追加していった。各々についてを紹介する前に、ここでは全機種に共通した基本デザインと特徴に簡単に触れておきたい。

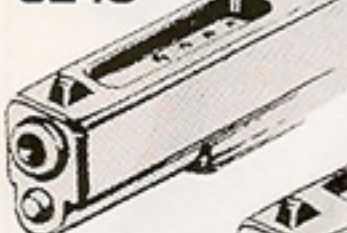
- ①フレームは200~60°Cで使用に耐える合成樹脂製（グロック社ではポリマー2とかスーパーポリマーと呼称）。
- ②金属パーツにティニファークーティングを実施。塩水による腐食に強く、表面皮膜強度はロックウェル硬度69RC（ちなみに工業用ダイヤ70RC、金属用やすり62~65RC）。
- ③スライドを重くしてリコイルをマイルドに（フレームが軽いため総重量では同ジャンルの他の銃より大幅に軽量）。
- ④ハンマーレスにしたことでハイグリップのデザインとなり、マズルジャンプを軽減。
- ⑤トリガー操作だけで解除できる3重の安全機構（トリガーセフティ、ファイアリングピンセフティ、ドロップセフティ）。etc.

●バリエーション32機種の分類

	フレーム サイズ	スライド サイズ	口 径						
			9x19	.40	.357	.380	10mm	.45	
ミッド サイズ グループ	スモール	SS	G26	G27	G33	G28			
	コンパクト	S	G19 G19C	G23 G23C	G32 G32C	G25			
	フル サイズ	M	G17 G17C G17T	G22 G22C	G31 G31C	G18、G18Cも 9x19口径			
		L	G34	G35					
ラージ サイズ グループ	フル サイズ	M					G20 G20C	G21 G21C	
	コンパクト シングル	S					G29 G30	G36	

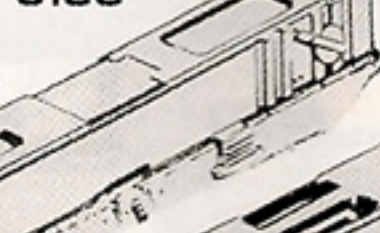
●コンペンセイテッドモデルのスライド形状

G24C



G17Lは24Cより上面の軽量化の穴が前後に長い

G18C



スライド後部上面にも軽量化の肉抜きがある

他のCモデル

使用前

マナー

操作

ホップ

保管他

手入れ

分解

パーツ

アクセ

故障?

アフター

通販

実銃

グロックバリエーション

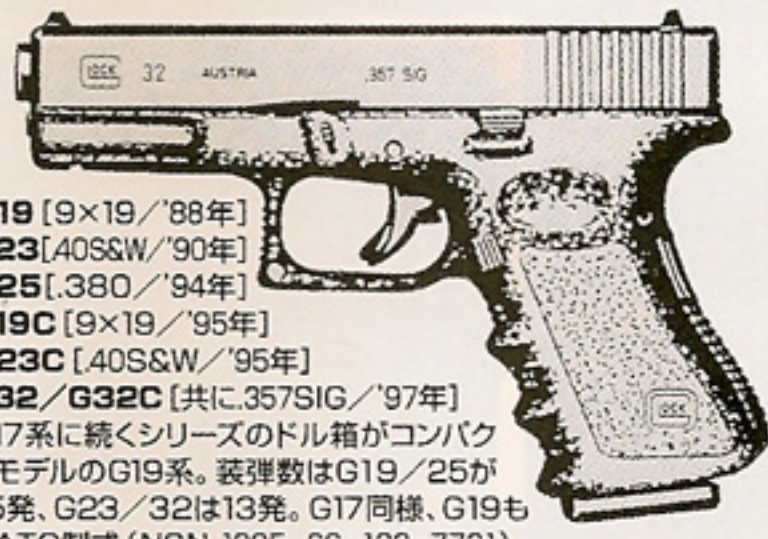
使用弾薬や仕様の違いで銃名は異なっているが、前ページの表のとおり、フレームとスライドの組合せで9系統に大別できる。下記の〔 〕内は弾薬と発表（発売）年を、装弾数は基本弾数を示す（なお、現在、アメリカでは民間用の場合、法律で全ての銃が10発以内に規制されている）。



G17 [9x19/'82年] 米国上陸1年後、拳銃部門で'87年度ベストインザマーケット賞受賞。
G22 [40S&W/'90年] 公用に最適と言われる.40口径仕様。装弾数15発（G17は17発）。
G17C [9x19/'95年] **G22C** [40S&W/'95年] 銃身上部に2本の反動軽減用ガスポートを追加。
G31/G31C [共に.357SIG/'97年] .45ACPよりパワーがある最新高速弾採用モデル。装弾数15発。
G17T ['96年] カラーマーキング弾仕様の訓練専用銃。



G18 [9x19/'86年] スライド左側面後部のセレクトーは上がセミ、下がフル。引金を引いている間Fピンが突出位置で固定しフルオートに。20発/秒。図は2ndタイプ初期で銃身がG17より20mm長く3本溝入り。後にG17と同寸銃身になる。図のマグベースは装弾2発増加の+2タイプ。フルオート時も予想以上にコントロールが楽。
G18C [9x19/'95年] 前ページの図参照。このモデルも'99年より3rdタイプフレームになった。



G19 [9x19/'88年]
G23 [40S&W/'90年]
G25 [.380/'94年]
G19C [9x19/'95年]
G23C [40S&W/'95年]
G32/G32C [共に.357SIG/'97年] G17系に続くシリーズのドル箱がコンパクトモデルのG19系。装弾数はG19/25が15発、G23/32は13発。G17同様、G19もNATO制式（NSN 1005-66-132-7731）。



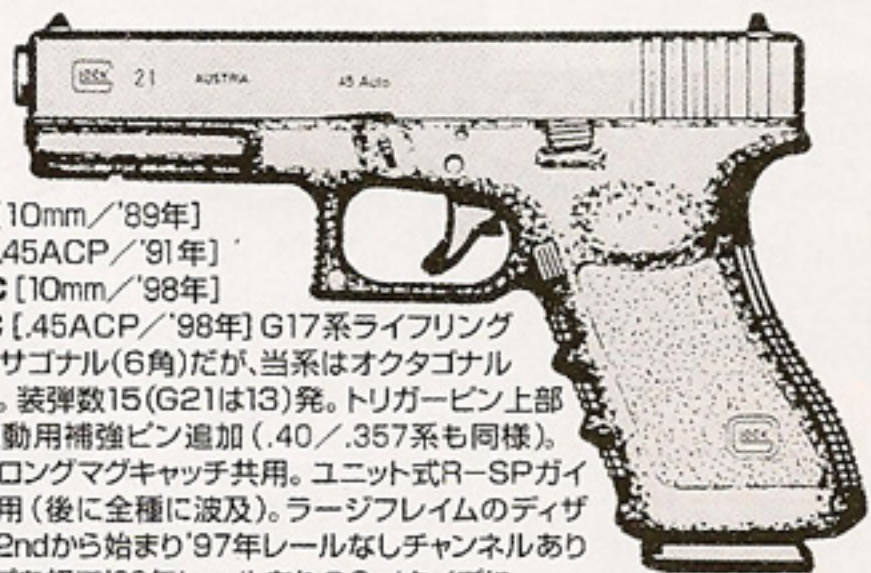
G17L [9x19/'88年]
G24/G24C [40S&W/'94年] コンパクトシューティング競技での使用も想定した長銃身モデル（G17より39mm長い）。ロングマガジンキャッチ、3.5ボンドコネクター採用。スライド上面（銃身部）には軽量化の4角穴（17L 66x19.5/24 49x15.5）がある。Cモデルには左右幅の異なる4本のポートも開けられている（17Lも初期にG18のような3本溝があったがヒビが入る傾向があり共に中止した。G24のは改良形状）。



G26 [9x19]
G27 [40S&W/共に'95年]
G28 [.380/'96年]
G33 [.357SIG/'97年] フィンガーチャンネルタイプ第1弾（ステップチェッカーなし）。最少・最軽量・装弾数はG26/28が12発、G27/33が11発。



G34 [9x19/'98年]
G35 [40S&W/'98年] G31~33同様、発表当時は2ndフレームだったが、すぐ3rdフレームに変わり図のタイプになる。'98年後半以降の本格量産品では上下左右アジャスタブルリアサイト、新型スライドストップも追加された。17Lと同じロングMGキャッチと3.5ボンドコネクターを装備。銃身長はG17より21mm長い。スライド上面にはG24同様の軽量化の穴がある。G34系の出現でG17系は'99年より生産中止となった。



G20 [10mm/'89年]
G21 [45ACP/'91年]
G20C [10mm/'98年]
G21C [45ACP/'98年] G17系ライフルリングはヘキサゴナル（6角）だが、当系はオクタゴナル（8角）。装弾数15（G21は13）発。トリガーピン上部に耐反動用補強ピン追加（.40/.357系も同様）。17Lのロングマガジンキャッチ共用。ユニット式R-SPガイド初採用（後に全種に波及）。ラージフレームのデザインは2ndから始まり'97年ルールなしチャンネルありのタイプを経て'98年ルールありの3rdタイプに。



G29 [10mm]
G30 [45ACP/共に'97年] G26系もそうだが当系もスライドストロークが短いためダブルのR-SPシステムを採用。装弾数はG29が10発、G30が9発。G30はマグベースがフィンガーレストを兼用した上下に長いタイプになっている。全長はG19より2mm短い3mm太い。



G36 [45ACP] '99年発売のグロックシリーズ初のシングルカラム（単列）マガジンタイプ。サイズ的にはデトニクス.45クラス。装弾数は6発。フィンガーレスト兼用のロングマガジンベース。フルアジャスタブルリアサイト標準装備。フレームにあるスライドストップのガード省略。

参考文献＝月刊Gun/グロック製品掲載各号（国際出版）、GLOCK: The New Wave in Combat Handguns（Peter A.Kasler/Paladin Press）、グロック社カタログ各号、その他

KSC G17 SERIES

SEMI-AUTOMATIC COMBAT AIR PISTOL

OPERATOR'S MANUAL



KSCホームページ <http://www.ksc-guns.co.jp/>

【SPEC.】 ●口径=9mm(6mmBB) ●全長=202mm(G17、G18)、223mm(G34) ●重量=660g(G17)、655g(G18C)、665g(G34)、725g(G34HW) ●装弾数=23+1(薬室内)発 ●使用パワーソース=KSCマイティボンベ(フロンHFC134a) ●機構=ガスブローバック/シングルアクションセミオートマチック(&フルオートマチック=G18)/アウターライヴショートリコイルメカニズム/ロングレンジピストンユニットシステム/ドロップスライダローディングプロセス/リキッドチャージマガジンシステム ●材質=耐衝撃性ABS、Znダイキャスト、スチールプレスパーツetc.

【標準装備】 ●ブラックコーティングブリジジョン(精密)バレル ●ドラムクリックタイプ可変ホップアップメカニズム

【付属品】 ●0.25gBB弾100発 ●ホップアジャストレンチ ●取扱説明書、エアガン警告カード、愛用者カード

●商品に関するお問い合わせや、本書内容でご不明な点がございましたら、当社アフターサービス部へご連絡ください。(TEL 055-277-2365)
●誤った取り扱い、改造を施した銃、分解・組み立て・改造時、等において生じた事故・故障・ケガ等につきましては、当社ではいっさいの責任を負いかねます。ご了承ください。 ●本説明書内で記載されている商品価格に消費税は含まれていません。



株式会社 ケーエスシー

〒400-0126 ☎055-277-2365
山梨県中巨摩郡敷島町大下条1616